

管 理 業 務

病 院 總 務 課

病 院 施 設 課

病 院 建 設 課

病院運営機関・各種業務委員会

病院総務課

1) 総務担当

1. 昇任 (平成22年4月1日付)

副病院長兼泌尿器科長 佐々木美晴 (診療部長兼医療安全管理室副室長兼泌尿器科長)

診療部長兼医療安全管理室副室長兼リハビリテーション科長兼リハビリテーション技術科長 清水 言行 (リハビリテーション科長兼リハビリテーション技術科長)

救急治療室科長兼脳神経外科医長 原 秀 (脳神経外科医長)

技監兼看護師長 吉田 佳枝 (看護師長)

看護師長 山村加寿子 (副看護師長)

副看護師長 朝比奈ひろみ (主任看護師)

副看護師長 大石悦子 (主任看護師)

副看護師長 上野山良子 (主任看護師)

副看護師長 神保 聡子 (主任看護師)

主任看護師 山中佐奈恵 (副主任看護師)

主任看護師 杉本 沙羅 (副主任看護師)

主任看護師 田中 良枝 (副主任看護師)

主任看護師 増田 友美 (副主任看護師)

主任看護師 奥松司奈子 (副主任看護師)

主任看護師 大須賀一実 (副主任看護師)

主任看護師 高橋まゆみ (副主任看護師)

主任看護師 森 桜子 (副主任看護師)

主任看護師 河合 王明 (副主任看護師)

主任看護師 伊藤 志保 (副主任看護師)

主任看護師 久保 浩 (副主任看護師)

主任助産師 池村さおり (副主任助産師)

副主任看護師 藤田 清子 (看護師)

副主任看護師 増田 里美 (看護師)

副主任看護師 青木佐代子 (看護師)

副主任看護師 進藤 仁 (看護師)

副主任看護師 大石由紀子 (看護師)

副主任看護師 岩谷 佳苗 (看護師)

副主任看護師 柴田 幸枝 (看護師)

副主任看護師 亀山 直枝 (看護師)

副主任看護師 藤田みゆき (看護師)

副主任看護師 市川麻理子 (看護師)

副主任看護師 小林 美春 (看護師)

副主任看護師 海野美智子 (看護師)

副主任看護師 佐塚加奈子 (看護師)

副主任看護師 清水 美帆 (看護師)

副主任看護師 上野しのぶ (看護師)

副主任看護師 齋藤志津江 (看護師)

副主任看護師 松浦 梨紗 (看護師)

副主任看護師 望月 葵 (看護師)

副主任看護師 石川 香織 (看護師)

副主任看護師 山田 沙織 (看護師)

副主任医療補助員 鍵山 尚子 (医療補助員)

治験管理室技師長 山本 紀夫 (治験管理室副技師長)

薬剤科副技師長 塚本 剛生 (薬剤科主任薬剤師)

薬剤科副技師長 岡 さをり (薬剤科主任薬剤師)

薬剤科主任薬剤師 高木 聡子 (薬剤科薬剤師)

リハビリテーション技術科技師長 池ヶ谷博英 (リハビリテーション技術科副技師長)

リハビリテーション技術科主任理学療法士 篠原 宏幸 (リハビリテーション技術科理学療法士)

リハビリテーション技術科主任理学療法士 中沢 稔 (リハビリテーション技術科理学療法士)

放射線技術科技師長 小泉 健二 (放射線技術科副技師長)

放射線技術科主任診療放射線技師 澤井 龍 (放射線技術科診療放射線技師)

検査技術科技師長 鈴木 光枝 (検査技術科副技師長)

検査技術科技師長 米津 宜則 (検査技術科副技師長)

検査技術科技師長 外 輝雄 (検査技術科副技師長)

検査技術科技師長 杉本 直樹 (検査技術科副技師長)

臨床工学科技師長 後藤 彰 (臨床工学科副技師長)

臨床工学科副技師長 興津 英和 (臨床工学科主任臨床工学士)

事務局 長 清水 正見 (参与兼病院総務課長)

参与兼医事課長 内田 隆夫 (医事課長)

病院総務課長 齋藤 隆之 (病院総務課参事兼統括主幹)

病院総務課副主幹 中西 一陽 (病院総務課主査)

病院施設課長 望月 茂昭 (病院総務課参事兼統括主幹)

2. 転入 (平成22年4月1日付)

看護科副看護師長 嶋根久美子 (静岡看護専門学校教務主幹補)

眼科視能訓練士 大柴 麗子 (病院局清水病院診療部眼科視能訓練士)

病院総務課参事兼統括主幹 斉藤 眞弘 (生活文化局文化スポーツ部生涯学習推進課参事兼統括主幹)

病院総務課統括主幹 原田 収司 (葵区まちづくり振興課主幹)

病院総務課主査 高山 淳 (清水区税務課主査)

病院施設課統括主幹 金井 浩一 (建設局土木部技術政策課主幹)

医事課統括主幹 市川 智章 (中央図書館主幹兼清水興津図書館長)

医事課主査 鈴木 慎一 (都市局都市計画部東静岡駅周辺整備課主査)

医事課主査 足立 高志 (経済局農林水産部農業振興課主査)

地域医療支援室参事 白鳥 吉章 (清水区保険年金課)

参事兼統括主幹

3. 転出 (平成22年3月31日付)

病院局清水病院 診療部眼科副技師長	海野 郁子 (眼科主任視能訓練士)
病院局長	池川 茂 (事務局長)
監査委員事務局参与兼次長	川口 明秀 (参与兼病院施設課長)
財政局調整室主査	新海 拓也 (病院総務課主任主事)
病院局清水病院事務局 病院施設課参事兼統括主幹	渡辺 幹夫 (病院施設課参事兼統括主幹)
都市局建築部建築総務課長	木村 昇 (病院建設課長)
都市局建築部 公共建築科主任技師	野口 信 (病院建設課主任技師)
保健福祉子ども局子ども青少年部 児童相談所参事兼統括主幹	川口 孝次 (医事課参事兼統括主幹)
財政局税務部税制課主査	今泉 隆宏 (医事課主査)
中央図書館副主幹	山西 聡 (医事課副主幹)
駿河区戸籍住民課 参事兼統括主幹	高橋 啓 地域医療支援室参事

4. 採用 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

ハートセンター心臓リ ハビリテーション科長	縄田 隆三 平成22年4月1日
外科医長	橋本 洋右 平成22年4月1日
ハートセンター 循環器内科医師	坂本 篤志 平成22年4月1日
呼吸器外科医師	玉里 滋幸 平成22年4月1日
外科医師	大目 祐介 平成22年4月1日
口腔外科医師	濱田 啓一 平成22年4月1日
消化器内科兼麻酔科専攻医	渥美 猛 平成22年4月1日
産婦人科専攻医	安立 匡志 平成22年4月1日
内科専攻医	近藤あかり 平成22年4月1日
内科専攻医	川合 智子 平成22年4月1日
内科専攻医	細谷奈津子 平成22年4月1日
整形外科専攻医	鈴木 愛 平成22年4月1日
内科研修医	佐田 遼太 平成22年4月1日
内科研修医	大箸 祐子 平成22年4月1日
内科研修医	佐藤 早苗 平成22年4月1日
内科研修医	坂口 知広 平成22年4月1日
内科研修医	小笠原 孝 平成22年4月1日
内科研修医	山中 憲 平成22年4月1日
内科研修医	曾根 由人 平成22年4月1日
内科研修医	高木 保 平成22年4月1日
内科研修医	康本 明吉 平成22年4月1日
内科研修医	住井 敦彦 平成22年4月1日
内科研修医	相澤 理人 平成22年4月1日
内科研修医	石川慎太郎 平成22年4月1日
内科研修医	服部 成良 平成22年4月1日
内科研修医	野ヶ山泰介 平成22年4月1日

内 科 研 修 医	遠山 幸果	平成22年4月1日
内 科 研 修 医	小幡 向平	平成22年4月1日
内 科 研 修 医	原田 介斗	平成22年4月1日
内 科 研 修 医	望月 裕季	平成22年4月1日
口 腔 外 科 研 修 医	土田 絵梨	平成22年4月1日
消 化 器 内 科 医 師	武尾 真宏	平成22年5月1日
小 児 科 長	小黒 克彦	平成22年7月1日
麻 酔 科 医 師	川島 信吾	平成22年7月1日
神 經 内 科 長	篠江 隆	平成22年9月16日
眼 科 医 長	櫻井 美晴	平成22年10月1日
内 科 研 修 医	佐川 雅子	平成22年10月1日
口 腔 外 科 研 修 医	中村 亮介	平成22年10月1日
整 形 外 科 専 攻 医	古橋 弘基	平成23年1月1日
耳鼻いんこう科専攻医	椛 慎治	平成23年3月16日
看 護 師	相川由香里	平成22年4月1日
看 護 師	赤堀 文哉	平成22年4月1日
看 護 師	赤堀美智子	平成22年4月1日
看 護 師	赤堀安有美	平成22年4月1日
看 護 師	天野未千留	平成22年4月1日
看 護 師	池ヶ谷侑里	平成22年4月1日
看 護 師	井上由実子	平成22年4月1日
看 護 師	梅木 香苗	平成22年4月1日
看 護 師	木内 悠太	平成22年4月1日
看 護 師	黒田 晴香	平成22年4月1日
看 護 師	小久保真由	平成22年4月1日
看 護 師	小林ちふみ	平成22年4月1日
看 護 師	佐藤 准子	平成22年4月1日
看 護 師	繁田 綾香	平成22年4月1日
看 護 師	杉浦 祥子	平成22年4月1日
看 護 師	鈴木 結菜	平成22年4月1日
看 護 師	高木 理江	平成22年4月1日
看 護 師	高橋江里奈	平成22年4月1日
看 護 師	高橋 初江	平成22年4月1日
看 護 師	高橋 美樹	平成22年4月1日
看 護 師	武田 唯	平成22年4月1日
看 護 師	田原 彩	平成22年4月1日
看 護 師	塚本 哲平	平成22年4月1日
看 護 師	塚本 美樹	平成22年4月1日
看 護 師	長井 文香	平成22年4月1日
看 護 師	中野 愛理	平成22年4月1日
看 護 師	羽山あゆみ	平成22年4月1日
看 護 師	古川 静香	平成22年4月1日
看 護 師	前林 未来	平成22年4月1日
看 護 師	松永 麻耶	平成22年4月1日
看 護 師	三田 佳苗	平成22年4月1日
看 護 師	港 祥子	平成22年4月1日
看 護 師	宮本 真衣	平成22年4月1日

看 護 師 村上ゆうこ 平成22年4月1日
 看 護 師 山本 静香 平成22年4月1日
 助 産 師 加藤 美樹 平成22年4月1日
 助 産 師 田嶋 美穂 平成22年4月1日
 助 産 師 西部紗英子 平成22年4月1日
 看 護 師 深澤 絵里 平成22年4月1日
 看 護 師 山村 耕介 平成22年6月1日
 看 護 師 坂本 美志 平成22年9月1日
 看 護 師 湯浅 早苗 平成22年9月1日
 助 産 師 佐野 加苗 平成23年2月1日
 薬 劑 師 富野真利子 平成22年4月1日
 病院総務課主事 杉田 知穂 平成22年4月1日

内 科 研 修 医 笹田久美子 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 佐田 遼太 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 大箸 祐子 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 遠山 幸果 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 望月 裕季 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 山中 憲 平成23年3月31日
 歯科口腔外科研修医 中村 亮介 平成23年3月31日
 看 護 師 羽山あゆみ 平成22年5月31日
 主 任 助 産 師 土本 美紀 平成22年6月30日
 看 護 師 江藤 淳子 平成22年6月30日
 看 護 師 山田亜妃子 平成22年6月30日
 看 護 師 山村 耕介 平成22年6月30日
 看 護 師 丸山 寛子 平成22年7月31日
 看 護 師 勝山真友子 平成22年8月15日
 看 護 師 木下 晴加 平成22年8月31日
 副 主 任 看 護 師 亀山 直枝 平成22年9月30日
 看 護 師 浦田 瑠奈 平成22年9月30日
 看 護 師 松本明希子 平成22年9月30日
 看 護 師 望月 知穂 平成22年9月30日
 助 産 師 荒砂 綾子 平成23年1月31日
 看 護 師 相川由香里 平成23年2月28日
 副 看 護 師 長 田中 早苗 平成23年3月31日
 主 任 准 看 護 師 長谷川知子 平成23年3月31日
 主 任 准 看 護 師 森 喜和子 平成23年3月31日
 主 任 看 護 師 小川 厚子 平成23年3月31日
 主 任 看 護 師 赤松ちとせ 平成23年3月31日
 主 任 准 看 護 師 池ヶ谷路子 平成23年3月31日
 主 任 看 護 師 田中利江子 平成23年3月31日
 主 任 看 護 師 勝又 祐子 平成23年3月31日
 主 任 看 護 師 鈴木 由美 平成23年3月31日
 主 任 看 護 師 長谷川康江 平成23年3月31日
 副 主 任 看 護 師 岩谷 佳苗 平成23年3月31日
 看 護 師 中川 文子 平成23年3月31日
 看 護 師 村田 友美 平成23年3月31日
 看 護 師 小林 素子 平成23年3月31日
 看 護 師 深澤和歌子 平成23年3月31日
 看 護 師 井出 景子 平成23年3月31日
 看 護 師 植松 恵理 平成23年3月31日
 看 護 師 諏訪 祐子 平成23年3月31日
 看 護 師 浦田真由美 平成23年3月31日
 看 護 師 鎌田祐加子 平成23年3月31日
 看 護 師 植垣 由記 平成23年3月31日
 看 護 師 萩原ななみ 平成23年3月31日
 看 護 師 石川 彩実 平成23年3月31日
 看 護 師 松田 千春 平成23年3月31日
 看 護 師 斉藤 涼子 平成23年3月31日
 看 護 師 松本千恵美 平成23年3月31日

5. 退職(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

消化器内科医師 岡崎 敬 平成22年5月15日
 小 児 科 長 鶴田 悟 平成22年7月31日
 内 科 研 修 医 鈴木 博貴 平成22年7月31日
 内 科 研 修 医 金子 真弓 平成22年7月31日
 口腔外科研修医 土田 絵梨 平成22年9月30日
 内 科 研 修 医 宮崎 貴則 平成22年12月31日
 整形外科医長 大和 雄 平成23年1月31日
 消化器内科兼麻酔科専攻医 渥美 猛 平成23年1月31日
 神 經 内 科 長 篠江 隆 平成23年3月31日
 眼 科 長 廣瀬 美央 平成23年3月31日
 救急治療室科長兼外科医長 竹花 卓夫 平成23年3月31日
 外 科 医 師 中川 淳 平成23年3月31日
 耳鼻いんこう科医師 鳥居 紘子 平成23年3月31日
 心臓血管外科医師 高橋 大輔 平成23年3月31日
 循環器内科医師 橋口 直貴 平成23年3月31日
 消化器内科医師 鈴木 亮 平成23年3月31日
 心臓血管外科専攻医 阿部 陸之 平成23年3月31日
 眼 科 専 攻 医 吉田 祥子 平成23年3月31日
 産婦人科専攻医 安立 匡志 平成23年3月31日
 血液内科専攻医 宮川 幸子 平成23年3月31日
 呼吸器外科専攻医 平野 雅幸 平成23年3月31日
 内分泌・代謝内科専攻医 河野 仁江 平成23年3月31日
 腎臓内科専攻医 林 憲史 平成23年3月31日
 泌尿器科専攻医 河野 仁 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 山田 諭 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 近藤 真哉 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 田口 有香 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 宇佐美 諭 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 村松 栄里 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 戸田 道仁 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 瀧口 徹 平成23年3月31日
 内 科 研 修 医 荒木 孝太 平成23年3月31日

看	護	師	鷺巢 友紀	平成23年 3 月31日
看	護	師	野田伊津美	平成23年 3 月31日
看	護	師	山田 奈保	平成23年 3 月31日
看	護	師	萩原 郁乃	平成23年 3 月31日
看	護	師	高橋 初江	平成23年 3 月31日
看	護	師	三浦 千依	平成23年 3 月31日
看	護	師	中村真理子	平成23年 3 月31日
病	院 技	監	荒井 知子	平成23年 3 月31日
技	師	長	中野 雅代	平成23年 3 月31日
薬	剂	師	竹元友佳子	平成23年 3 月31日
薬	剂	師	日浅 俊介	平成23年 3 月31日

2) 企画経営担当

企画経理担当は、企画部門（「病院の基本計画の企画調整に関すること」「病院医療情報システムに関すること」）と、経理部門（「病院の出納及び予算・決算に関すること」）からなっている。

基本計画関連では、静岡市病院経営計画に基づき静岡病院経営懇話会を設置し、平成21年度決算に対する点検・評価・公表を行った。

医療情報システム関連では、院内システムの管理運営

を行った。

平成22年度の決算状況は、事業収益、事業費用ともに、前年度比5.7%増の183億3,881万円、5.1%増の182億3,831万円となり、当年度純利益は、一般会計補助金を受けることなく1億500万円となり、実質黒字決算となった。

その他の業務として、病院機能評価関連事務、治験審査関連事務、臓器移植関連事務等を行った。

表1 収益的収入及び支出
収入（税込み）

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減
	円	円	円
病院事業収益	17,994,529,000	18,368,162,157	373,633,157
医業収益	16,702,073,000	17,110,065,750	407,992,750
医業外収益	1,292,456,000	1,258,096,407	△ 34,359,593
特別利益	0	0	0

支出（税込み）

区 分	予 算 額	決 算 額	不 要 額
	円	円	円
病院事業費用	18,017,929,000	18,260,731,686	△ 242,802,686
医業費用	17,357,402,000	17,266,660,445	90,741,555
医業外費用	659,527,000	994,071,241	△ 334,544,241
予備費	1,000,000	0	1,000,000

表2 資本的収入及び支出
収入（税込み）

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減
	円	円	円
資本的収入	79,255,000	79,770,000	515,000
他会計支出金	79,000,000	78,960,000	△ 40,000
貸付金返還金	255,000	810,000	555,000

支出（税込み）

区 分	予 算 額	決 算 額	不 要 額
	円	円	円
資本的支出	764,675,000	756,457,883	8,217,117
建設改良費	433,228,000	425,581,058	7,646,942
貸付金	18,000,000	17,430,000	570,000
企業債償還金	313,447,000	313,446,825	175

※予算額には翌年度繰越額を含まず

表3 損益計算書

科目	金額		構成比率	
	22年度	21年度	22年度	21年度
	円	円	%	%
医業収益	17,088,468,569	15,672,292,902	93.2	90.4
入院収益	10,814,516,546	9,705,695,344	59.0	56.0
外来収益	5,283,762,847	4,912,918,937	28.8	28.3
他会計負担金	556,400,000	607,396,000	3.0	3.5
その他医業収益	433,789,176	446,282,621	2.4	2.6
医業費用	17,026,731,186	16,436,066,392	93.4	94.8
給与費用	7,426,761,878	7,039,232,015	40.7	40.6
材料費用	5,642,912,468	5,637,237,815	30.9	32.5
経費	2,800,236,036	2,761,055,897	15.4	15.9
減価償却費	1,077,319,987	921,876,269	5.9	5.3
資産減耗費	38,037,028	38,487,241	0.2	0.2
研究研修費	41,463,789	38,177,155	0.2	0.2
医業利益	61,737,383	△763,773,490	—	—
医業外収益	1,250,348,475	1,672,948,353	6.8	9.6
受取利息配当金	910,614	1,062,220	0.0	0.0
他会計補助金	0	520,000,000	0.0	3.0
国庫補助金	31,168,489	17,989,944	0.2	0.1
県補助金	24,118,000	22,978,000	0.1	0.1
他会計負担金	982,400,000	897,257,000	5.4	5.2
その他医業外収益	211,751,372	213,661,189	1.2	1.2
医業外費用	1,211,581,497	904,174,556	6.6	5.2
支払利息及び企業債取扱諸費	289,898,110	290,815,074	1.6	1.7
繰延勘定償却	433,649,606	76,645,338	2.4	0.4
看護師確保費	6,180,000	0	0.0	0.0
雑損失	481,853,781	536,714,144	2.6	3.1
当年度純利益	100,504,361	5,000,307	—	—

表4 貸借対照表

科目	金額		構成比率	
	22年度	21年度	22年度	21年度
	円	円	%	%
資産	21,314,709,620	22,843,528,444	100.00	100.00
固定資産	17,696,893,696	18,405,377,355	83.03	80.57
有形固定資産	17,608,580,696	18,327,504,355	82.61	80.23
無形固定資産	4,993,000	4,993,000	0.02	0.02
投資	83,320,000	72,880,000	0.39	0.32
流動資産	3,617,815,924	4,004,501,483	16.97	17.53
現金預金	501,994,088	1,176,287,797	2.36	5.15
未収金	2,869,274,114	2,626,569,828	13.46	11.50
貯蔵品	190,607,776	136,871,261	0.89	0.60
その他流動資産	0	0	0.00	0.00
本支店勘定	55,939,946	64,772,597	0.26	0.28
繰延勘定	0	433,649,606	0.00	1.90
控除対象外消費税額	0	433,649,606	0.00	1.90
負債及び資本	21,314,709,620	22,843,528,444	100.00	100.00
負債	2,380,844,423	3,764,878,783	11.17	16.48
固定負債	804,000,000	330,000,000	3.77	1.44
退職給与引当金	804,000,000	330,000,000	3.77	1.44
流動負債	1,576,844,423	3,434,878,783	7.40	15.04
未払金	1,518,533,561	3,384,035,287	7.12	14.81
未払費用			0.00	0.00
その他流動負債	53,603,859	50,843,496	0.25	0.22
本支店勘定(清水病院勘定)	4,707,003	0	0.02	0.00
資本	18,933,865,197	19,078,649,661	88.83	83.52
資本金	17,344,203,762	17,607,650,587	81.37	77.08
自己資本金	7,606,932,768	7,556,932,768	35.69	33.08
借入資本金	9,737,270,994	10,050,717,819	45.68	44.00
剰余金	1,589,661,435	1,470,999,074	7.46	6.44
資本剰余金	994,485,908	926,327,908	4.67	4.06
利益剰余金	595,175,527	544,671,166	2.79	2.38

表5 年度別経営収支(平成18~22)

年度	収入		支出		損益	実質収支
	決算額	趨勢比	決算額	趨勢比		
	円	%	円	%		
18	15,159,042,363	100.0	15,147,065,874	100.0	11,976,489	△298,023,511
19	15,616,435,498	103.0	15,614,057,824	103.1	2,377,674	△127,622,326
20	16,883,430,819	111.4	16,880,603,086	111.4	2,827,733	△1,277,172,267
21	17,345,241,255	114.4	17,340,240,948	114.5	5,000,307	△514,999,693
22	8,338,817,044	121.0	18,238,312,683	120.4	100,504,361	100,504,361

表6 経営分析緒値

分析項目		分析項目	
1. 総収支比率(%)	100.6	10. 平均在院日数	13.6
2. 経常収支比率(%)	100.6	11. 薬品使用効率	
3. 医業収支比率(%)	100.4	投薬(%)	
4. 他会計繰入金比率(%)	8.4	注射(%)	
5. 職員給与比率(%)	43.5	12. 診療収入に対する構成比率	
6. 一般病床利用率(%)	91.2	投薬収入(%)	12.7
7. 外来入院患者比率(%)	160.7	注射収入(%)	7.1
8. 1日平均患者数		検査収入(%)	7.8
入院(人)	490	X線収入(%)	3.6
外来(人)	1,182	13. 流動比率(%)	230.1
9. 患者1人1日あたり診療収入		14. 自己資本構成比率(%)	43.1
入院(円)	60,513	15. 負債比率(%)	149.0
外来(円)	18,407	16. 固定比率(%)	192.4

表7 固定資産明細書

資産の種類	年度当初の 現在高	当年度 増加額	当年度 減少額	年度末 現在高	減価償却累計額			年度末 償却未済高
					当年度 増加額	当年度 減少額	累 計	
	円	円	円	円	円	円	円	円
土 地	743,515,609	0	0	743,515,609				743,515,609
建 物	19,611,519,797	0	0	19,611,519,797	586,129,409		5,388,281,634	14,223,238,163
構 築 物	144,382,478	0	0	144,382,478	6,632,694		60,369,159	84,013,319
器 械 備 品	6,301,150,928	324,777,998	695,091,451	5,930,837,475	484,417,448	645,707,372	3,481,664,991	2,449,172,484
車 両	21,260,400	0	0	21,260,400	140,436		19,725,688	1,534,712
建設仮勘定	0	80,802,409	0	80,802,409				80,802,409
その他有形 固定資産	24,104,000	2,200,000	0	26,304,000				26,304,000
計	26,845,933,212	407,780,407	695,091,451	26,558,622,168	1,077,319,987	645,707,372	8,950,041,472	17,608,580,696

病院施設課

病院施設課の業務は、事業資産の取得、管理及び処分、施設及び設備の維持管理、物品の調達及び管理、病院の

防災及び消防計画に関する業務が主なものである。

1) 施設管理担当

今年度の経費の主なものは、光熱水費が約34,156万円であり、前年に比べ約302万円（1.0%）の微増加である。

また、業務委託は49件約29,479万円である。

修繕費は、大型修繕が7件で約1,988万円（前年度8件約2,029万円）、小額修繕が201件約2,841万円（前年度266件約4,764万円）であり、東館新築、西館改修が完了し、前年度より減少している。

大型修繕としては、電気設備機器・空調設備機器の性能を維持するために経年劣化による部品交換等を前年に引続き実施したものと、医療ガス機器の更新修繕を行った。

また、新たに工事請負による熱源設備の更新工事、照明器具の更新工事を行った。

小額修繕は、前年に引続き院内内装、建具、照明設備、電話設備、空調機・排水設備及び給水等の修理依頼件数が多く、施行理由としては経年劣化及び経常的消耗品の取替である。

病院内から排出される産業廃棄物は、全体で217.1万リットル（前年度184.9万リットル）で、増加している。

平成22年度 大型外注修繕（100万円以上）

修繕番号	修繕名	請負人	請負金額(円)
修第1号	西館12階電気室内高圧真空遮断器オーバーホール点検修繕	日本電設工業(株)	3,780,000
修第2号	東館12階電気室非常用保安動力バックアップ設備増設修繕	日本電設工業(株)	1,932,000
修第3号	西館冷却水ポンプ外修繕	三洋静岡設備(株)	6,300,000
修第5号	西館吸引ポンプ修繕	(株)エフエスユニ	1,785,000
修第6号	西館手術室医療ガス配管設備修繕	(株)エフエスユニ	2,310,000
修第7号	西館空調自動制御機器修繕	日本電技(株)静岡支店	3,780,000
6件	合計金額		19,887,000

平成22年度 建設工事の概要

修繕番号	修繕名	請負人	請負金額(円)
静病施第1号	静岡病院 吸収冷温水機更新工事	三洋静岡設備(株)	58,800,000
静病施第2号	静岡病院 照明器具更新工事	日静電機工業(株)	20,160,000
6件	合計金額		78,960,000

平成22年度 小額（250万円以下）外注修繕

業種	設備	件数	金額比率(%)	業種	設備	件数	金額比率(%)
建築	医師住宅内装	10	12.2	空調	空調機(熱源)	13	50.6
	院内内装	43	64.8		計装機器	1	0.3
	建具(自動ドア含む)	7	6.2		配管関係	12	35.0
	屋上防水	0	0.0		ダクト関係	5	10.1
	院内サイン	2	1.0		医師住宅	0	0.0
	院内外構	3	10.5		その他	2	4.1
	木工事等	0	0.0				
	その他	5	5.2				
	件数 計	70	100.0		件数 計	33	100.0
	金額(円)	8,839,320	金額(円)	5,862,780			
電気	電気設備改修	6	24.3	衛生	排水設備	8	36.4
	コンセント	8	15.2		器具取替	6	17.4
	照明設備	3	16.0		給水、湯、ガス	7	20.9
	N s コール等	3	1.3		防災関係	0	0.0
	電話設備	32	16.9		医師住宅	4	7.6
	防災関係	2	0.8		その他	2	17.7
	TV、アンテナ	1	0.8		件数 計	27	100.0
	インターホン	1	0.5		金額(円)	4,462,941	
	その他	11	24.3		医療ガス	3件	
	件数 計	67	100.0		金額(円)	546,000	
	金額(円)	8,394,485			搬送機	0件	
					金額(円)	0	
					昇降機	1件	
			金額(円)	306,600			
			総件数	201件			
			総金額(円)	28,412,126			

平成22年度 光熱水費

種類	金額(円)
電気	160,751,310
水道	33,468,700
ガス	147,343,559
合計	341,563,569

平成22年度 委託料

委託種類	件数	金額(円)
設備機器保守点検業務	35件	193,169,760
清掃等保清業務	8件	84,631,813
駐車場管理業務	2件	16,997,400
その他業務委託	0件	0
合計	49件	294,798,973

平成22年度 産業廃棄物処理実績（数量）

種類	廃棄物の内容	処理量（リットル）
感染性	人工腎臓用血液回路、点滴セット、ビニルチューブ、プラスチック製品等	1,962,880
	注射針、注射器、ビニルチューブなど	122,700
	小計	2,085,580
非感染性	廃培地、廃血液、廃血清プラスチック容器等	64,080
	アンプル、ガラス小瓶、プラスチック製品等	21,200
	キンロール製品等	912
	小計	86,192
安定	金属性ベット、ギプス、金属、陶磁器屑、石膏	22㎡
	合計	2,171,772

2) 物品管理担当

病院が医療サービスを提供するために必要なあらゆる物品を調達し、各部門の業務を支援する担当（係）である。

物品管理担当では次のような業務を担当しています。

- 1 医療機器の購入契約、支払事務
- 2 固定資産台帳の作成、除却事務
- 3 薬品の購入契約、支払事務
- 4 診療材料の購入契約、供給及び支払事務

- 5 医療用備品及び庁用器具備品の購入契約、支払事務
- 6 文房具、雑貨等の消耗品並びに印刷物の購入契約、供給及び支払事務
- 7 医療器械器具等の修理及び保守契約事務
- 8 在宅医療に関する機器の賃借契約、支払事務
- 9 不用品の売却・処分
- 10 その他の物品等の調達・契約事務

以上の主な業務の情報収集と、物品を安価で購入して効率のよい病院運営に寄与することに心掛けている。

平成22年度 器械及び器具購入の概況（1件1,000万円以上のもの）

器械名	製造会社・規格	部門名
超音波診断装置	フィリップス iE33 3D Version	麻酔科 (手術室)
フルデジタルモバイルCアーム	フィリップス BV Pulsera	手術室
脳神経外科手術用顕微鏡	オリンパス OME-9012IR	脳神経外科 (手術室)
X線骨密度測定装置	GEヘルスケアジャパン PRODIGY	内分泌代謝内科 (放射線技術科)
多方向X線透視装置	東洋メディックス Bipianar	整形外科 (手術室)

平成22年度 薬品購入額上位10品目

品名	数量
リュープリンSR注射用キット 11.25mg	766
アリムタ注射用500mg	209
リツキサン注10mg/ml 500mg	245
レミケード点滴静注用100	514
トラクリア錠 62.5mg	8,460
照射赤血球濃厚液-LR「日赤」A型2単位	1,937
リピトール錠10mg PTP	275,800
アバスチン点滴静注用100mg/4ml	676
ネオーラル50mgカプセル	65,800
照射濃厚:血小板-LR「日赤」A型10単位 約200ml1本	384

薬品契約総品目 2,714品（薬品1,553品、試薬1,369品）
（薬品費執行額 3,588,791千円の11.27%）

平成22年度 診療材料購入額上位10品目

品名	数量
イントラフォーカスViewIT	416
リプライDR（植込型ペースメーカー）	38
キャピオックス回路（RX）Xコート	129
カーペンターエドワーズ牛心のう膜生体弁マグナ21mm	26
PVCフリー テルフュージョン輸液セット 20滴	179,700
スワンガンツCCO/CEDVサーモダイリュー ジョンカテーテル18Fr	415
液体酸素 1kg	199,920
プロモートRF36（埋込型除細動器）	5
MIJネイル125°/130°	94
GDC10 ウルトラソフト 2mm/1cmから4 mm/8cm	125

診療材料契約品目 5,704品目
（診療材料費執行額 2,148,583千円の10.17%）

治験管理室

治験管理室は病院長直轄の組織であり、治験受託業務の窓口としての治験事務局員（治験審査委員会（IRB）の運営・支援を行うIRB事務局員を兼ねる）と、また被験者と治験責任（分担）医師及び治験依頼者であるメーカーの三者間をコーディネートし、治験の円滑な推進支援を図る治験コーディネーター（CRC）より構成されている。

今年度、実績としては1件の新規治験を受託し、前年度より継続の1件については実施後終了、別の継続1件は次年度にさらに継続更新となった。課題の一つでもある実施率については、終了した1件については60%であった（10例契約中6例実施）。目標の80%には満たなかったが、術後疼痛の試験でもあり、13例組み入れて、痛みの訴えが6例しかなかった点を考慮すれば、十分な結果と言えるであろう。また、次年度にも継続する1件については、順調に症例数追加契約を重ねて、33例まで実施してきている。次年度も多くの組み入れが期待できる試験だけに、関係部署の負担軽減を図りながら、数多くの被験者組み入れ・実施をしていきたい。

昨年度、導入について承認された治験施設支援機関（SMO）による外部CRCであるが、基本提携契約を結ぶのに多くの期間を要してしまったにもかかわらず、

新規治験を1件受託することができた。スタートアップおよび治験の実施は次年度送りとなったが、SMO導入の効果を実証できた。今後は外部CRCの院内での周知も含めて、試験を実施する関係部署と外部CRC間のフォローを綿密に行うことが重要と考える。

治験受託の入り口である治験実施可能性調査は、ファルマバレーセンター（PVC）経由4件、日本医師会経由1件、依頼者の直接依頼0件と、ここ例年に変わらず低迷しており、治験受託に結び付けるには厳しい状況が続く。そのような状況下、新たに導入したSMO経由の紹介では、20件の治験紹介がされ、そのうちの1件が受託に結び付く結果となったのは、先に述べた通りである。

治験以外では、PVCが推進する静岡県がん診療連携拠点病院10医療機関を中心とした多施設共同臨床試験において、当院事務局として試験運営事務局との連絡、院内における調整等、試験推進の為に積極的に関与し、年度初旬にスタートアップすることができた。その後、業務内容は被験者対応やスケジュール管理、データ入力等のCRC業務にシフトされ、現在順調に試験の遂行が行われている。

（宮下 正）

実績

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
治 験	契約件数	1	0	4	1
	継続件数	1	2	0	2
製造販売後調査 契約件数	医薬品	16	14	41	23
	機器	4	1	3	1

病院運営機関・各種業務委員会

① オープンシステム運営協議会

目的 オープンシステムの運営上生じた諸問題を解決するため市医師会・歯科医師会登録医と協議し、円滑な運営を図る。

委員長 島本光臣

副委員長 岡慎一郎、宮城達郎

委員 (病院側) 滝澤明憲、平田健雄、佐々木美晴、千原幸司、脇 昌子、清水言行、長谷川和樹、岡田美智子、清水正見

(登録医側) 袴田光治、大石達雄、石川靖彦、表 信吾、北村 明、野々村光栄、近藤 誠

(保健所) 加治正行

幹事 内田隆夫、白鳥吉章、日下部幸伸

開催記録

平成22年12月14日(火)

議題

(1) 平成21年度オープンシステム利用状況の報告

事務局から、入院患者数において前年度に比べ57人、20.5%の増加、検査依頼患者数においては前年度に比べ296人、35.3%減という状況であったこと、ベッドの稼働率においては48.8%で、前年度稼働率52.1%より3.3ポイント下がっていたこと。オープン患者の平均在院日数が10.5日と前年の13.7日から3.2日減少したことが稼働率に反映された状況であったことなど、平成21年度の稼働状況について報告がされた。また、登録医による手術室や検査機器の利用は、手術による利用130件、カテーテル等の検査利用106件であったことも併せて報告された。

(2) 登録医からの要望等

① MR・CTなどの画像データをダイコムデータでもらうことができないか。

② 紹介患者が長時間待たないように、紹介患者の予約枠を設けて欲しい。初診紹介予約を実施することについて、再度確認する。

② 栄養サポートチーム

目的 入院患者の栄養状態の問題点抽出と評価を行い、改善と早期快復に向け活動していくこと。

リーダー 千原幸司(呼吸器外科)

サブリーダー 高橋好朗(消化器内科)、久保田美保子(栄養科)

スタッフ 前田賢人(外科)、清水言行(脳神経外科)、佐野武尚(呼吸器内科)、冨田浩一(皮膚科)、朴貴典(内分泌・代謝内科)、小野澤陽子(循環器内科)、岡田達治(心臓血管外科)、大和雄

(整形外科)、福島裕子(看護科)、高塚敏子(看護科)、永井一美(看護科)、黒瀬かよ子(看護科)、岩崎千景(看護科)、伊藤弘(薬剤科)、青木文乃(検査技術科)、篠原宏幸(リハビリテーション技術科)、小野田博繁(リハビリテーション技術科)、岩崎佳乃子(リハビリテーション技術科) 増田治乃(地域医療支援室)、三浦和宏(医事課)

幹事 長谷川祐子(栄養科)

開催記録

平成22年4月26日(月)

1. NST回診報告
2. 今年度の活動計画

平成22年5月24日(月)

1. NST回診について

平成22年6月28日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について

平成22年7月26日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について

平成22年8月23日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について

平成22年9月27日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について
3. TNTセミナーの報告

平成22年10月25日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について
3. NSTマニュアルについて

平成22年11月22日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について
3. NSTマニュアルについて
4. 経腸栄養開始プランについて

平成22年12月20日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について
3. NSTマニュアルについて
4. 経腸栄養開始プランについて

平成23年1月24日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について
3. 経腸栄養開始プランについて

平成23年2月21日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について
3. 経腸栄養開始プランについて

平成23年3月28日(月)

1. NST回診報告
2. NST回診について(年間報告)

NST回診は、今年度7月から従来の主治医からの依頼方法に加え、週1回NST側から積極的に介入する方法を開始した。すなわち、検査技術科がアルブミン、ヘモグロビン、リンパ球数によりスクリーニングし、チームリーダーの医師がNST要介入対象患者をリストアップし、毎月第1週から第4週に1チーム(医師、薬剤師、栄養士、看護師、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、メディカルソーシャルワーカー)が数人の患者病棟を訪問し、現場のスタッフと討論する方法とした。年間回診件数は58件(NST介入45件、依頼13件)と昨年度の16件(依頼)に比べて大幅に増加した。

日本静脈栄養学会主催TNT研修会に2名の医師が参加し、患者抽出から栄養評価、モニタリングまでの一連のながれをSGA(主観的包括的評価)で行うスタイルを導入した。今後はNST介入後の継続的な関与や介入効果の検証が必要である。

経腸栄養剤について、医薬品と食品別、病態別等の種類別に一覧表を整理し見直しを行った。栄養剤の容量が異なるため、容量別に複数の経管栄養の開始プランが必要となり7種類のプランを作成した。今後運用を開始していく(千原幸司)。

③ 医療安全管理委員会

目的 医療事故防止、医事紛争防止を中心としたリスクマネジメントの確立を図る。

委員長 滝澤明憲

副委員長 清水言行

委員 島本光臣、岡田美智子、赤池正久、石黒裕子、前田賢人、中井真尚、田中俊夫、山田 孝、牧田まり子、井上暢子、大塚倍恵、池ヶ谷幸恵、太田明子、青山治子、岡さをり、石向田鶴男、外 輝雄、佐藤景二、興津英和、中沢 稔、内田隆夫、齋藤隆之、望月茂昭、塚本ひとみ、向島光太郎

開催記録

平成22年4月13日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) 医療安全全国共同行動 進捗状況
- (3) その他
 - ・レポート集計報告

平成22年5月25日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) 医療安全管理マニュアルの改訂
- (3) その他
 - ・レポート集計報告

平成22年6月8日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) 医療安全管理マニュアル改訂
- (3) 医療安全全国共同行動 進捗状況報告
- (4) その他
 - ・レポート集計報告

平成22年7月13日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告

平成22年8月10日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告
 - ・医療事故防止対策研修会の案内(?静岡県病院協会主催)

平成22年9月7日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告
 - ・医療安全全国共同行動 医療安全全国フォーラム開催の案内

平成22年10月12日(金)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告
 - ・医療安全全国共同行動 各行動目標進捗状況

平成22年11月9日(月)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告

平成22年12月21日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告

平成23年1月11日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告

平成23年2月8日(火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告

平成23年 3月29日 (火)

- (1) 作業部会報告
- (2) その他
 - ・レポート集計報告

総括コメント

1. 医療安全全国共同行動への参加

平成21年4月より、医療安全全国共同行動の全8行動目標に参加登録し、「医療の質・安全の効用を目指す取り組みの普及」、「医療の質・安全向上の取り組み成果の可視化」、「医療に対する患者・市民の信頼の向上」を目的に、各作業部会、院内感染対策委員会および、医療安全管理室による取り組みを継続している。

2. 各作業部会の取り組み

A部会 (人工呼吸器、窒息、酸素吸入、誤嚥、機器管理)

- ・カフ計使用時の三方活栓の使用を禁止
- ・「医療機器使用中の操作が分からない、不安を感じる場合」のフローシート作成
- ・閉鎖式吸引法の導入
- ・除細動器 (DC) およびAED配置部署一覧を最終改訂
- ・指差し呼称ポスターの改訂

B部会 (患者誤認)

- ・患者誤認防止のための院内放送の実施 (7月、12月にそれぞれ1週間)
- ・院内患者専用TV用に誤認防止放送を作成し、放送
- ・救急外来における患者誤認防止のための患者用名札を作成

C部会 (注射)

- ・混ぜてはいけない注射薬のリストアップと周知
- ・院内標準インスリンスライティングスケールの作成
- ・危険薬のリストアップと周知 (G部会と合同)

D部会 (手術、検査)

- ・滅菌されたライン入りガーゼ、ガーゼカウント機の導入

E部会 (転倒、転落、入浴)

- ・転倒転落予防勉強会の開催
- ・転倒転落時対応マニュアル、アセスメントスコアシート、看護計画の改訂
- ・転倒転落時チェックシート、転倒転落時対応フローチャートの作成

F部会 (チューブ・ドレーン)

- ・「胃管挿入後未確認」の札の作成
- ・チューブ誤挿入のハイリスク患者の識別
- ・「緊急やむを得ない行動制限に関する説明・同意

書」を1種類に院内統一

- ・「身体抑制説明・同意書」の改訂
 - ・栄養チューブに関する病棟アンケートの実施
- #### G部会 (与薬・麻薬)
- ・処方確認画面に薬剤表示がされないようシステムを修正
 - ・インスリン製剤の種類と作成時間表、経口血糖降下剤一覧表を作成
 - ・処方オーダーコメント入力について医師へ周知
 - ・経口用液剤へのカラーシリンジの導入
 - ・麻薬、抗がん剤等の薬品名の前に薬剤の種類を表す表示を追加
 - ・薬包紙における錠数表示を「T」から「錠」へ変更
 - ・患者が内服する麻薬薬剤リストの作成

H部会 (その他)

- ・無断離院防止のためのポスター作製、入院案内への追記
- ・配膳時の毛髪混入防止のため、配膳者のエプロン、キャップ着用を決定

3. 「血栓塞栓症診療マニュアル」の作成

血栓塞栓症の診断、治療基準の作成のため、「抗凝固療法ガイドライン」および「静脈血栓塞栓症予防マニュアル」を改訂し、「血栓塞栓症診療マニュアル」を作成した。

医療安全管理委員会では、各作業部会でインシデントレポートを検討し、対策を実施している。しかし、依然としてインシデントレポート数は増加傾向にあり、また、同様の事例が繰り返し報告されてもいる。

本年度より、医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”の全行動目標に参加登録した。各行動目標に引き続き取り組み、さらなる医療安全を図ってきたい。(滝澤明憲)

④ 治験審査委員会

目的 当院で治験 (製造販売後臨床試験を含む) を実施する際に、治験計画及び治験中の安全性と倫理性、科学性を審査する。

また、製造販売後調査 (使用成績・特定使用成績調査、副作用感染症報告・・・医療機器も含む)、及び新規院内製剤等の実施についても検討を行う。

委員長 宮下 正

副委員長 石黒裕子、佐藤景二

委員 山田 浩、清水敏男、土屋仁美、佐々木美晴、小野寺知哉、岩井一也、岡田美智子、内田隆夫、斎藤真弘、岡本浩明、吉田佳枝、秋山礼子

幹事 山本 紀夫、後藤 彰、勝山 徹、鈴木 芳治、
大石 千晴

開催記録

開催日	新規審議	継続審議 (安全性報告等)	製造販売後 調査関連
① 4月8日	院内製剤1件	14件	2件
② 6月10日		5件	3件
③ 7月8日		6件	2件
④ 8月12日	院内製剤1件	5件	6件
⑤ 10月14日	院内製剤1件	8件	8件
⑥ 11月11日		7件	1件
⑦ 12月9日	治験1件、院内製剤1件	1件	3件
⑧ 2月10日			4件
⑨ 3月10日		13件	6件

総括コメント

新規治験申請は1件に終わったが、昨年度承認された治験の5件中2件が今年度も継続して実施中であった為、継続審議は59件と多くの検討を要した。特に安全性報告においては、すでに海外にて先行して市販されている薬品の治験も含まれていた為、試験からの報告でなく、海外自発報告の件数が多くを占めていた。

治験紹介数の減少及び院内CRC不足を解消する手段として、昨年度に導入された治験施設支援機関(SMO)からは、20件の実施可能性調査が行われ、その内の1件が新規治験申請に結びつく結果となり、一定の効果が確認された。今後は、治験を遂行するに当たり、外部CRCの院内での動向も見ながら問題点の改善、導入全般についての見直し等も検討する必要がある。

他ルートからの治験実施可能性調査数はPVC経由で4件、日本医師会経由で1件、依頼者直接依頼が0件と例年通りに少ない傾向となっている。その中でSMO経由の紹介数は20件と多く、今後の治験受託増加に寄するとの期待をもたせる。(宮下 正)

⑤ 病院運営会議

目的 病院運営全般についての重要事項の意思決定及び連絡調整を行う。

構成 島本光臣、滝澤明憲、平田健雄、宮下 正、
佐々木美晴、千原幸司、小野寺知哉、脇 昌子、
清水言行、岡田美智子、石黒裕子、赤池正久、
清水正見、斎藤隆之、斎藤真弘、望月茂昭、松
田光広、金井浩一、内田隆夫、市川智章、川口
則行、白鳥吉章、池川 茂、望月 久

幹事 原田収司

開催日 毎月第4火曜日に定例開催した。

⑥ 診療科長会議

目的 病院運営会議での意思決定事項の伝達及び医療上の必要事項について協議する。

構成 島本光臣、滝澤明憲、平田健雄、宮下 正、佐々
木美晴、千原幸司、小野寺知哉、脇 昌子、清
水言行、松本芳博、望月敏弘、横島孝至、佐野
倫生、廣瀬美央、山崎文郎、中井真尚、石橋孝
文、小柳津竜樹、長谷川和樹、宮本日出雄、加
藤茂久、森木利昭、縄田隆三、田中俊夫、村田
耕一郎、高橋好朗、深澤誠司、富田浩一、鶴田
悟、五十嵐健康、池上 聰、山本真志、竹花卓
夫、原 秀、前田明則、濱村啓介、山田 孝、
岩井一也、野口哲哉、前田賢人、水野薫子、野
口哲哉、佐野武尚、綾部裕子、米沢 圭、米澤
真澄

幹事他 清水正見、斎藤隆之、望月茂昭、内田隆夫、岡
田美智子、石黒裕子、赤池正久、白鳥吉章、原
田収司

開催日 運営会議以後2回目の金曜日に定例開催した。

⑦ 病院連絡会

目的 病院運営会議での意思決定事項の伝達等を行い、病院の円滑な運営を図る。

構成 島本光臣、滝澤明憲、平田健雄、宮下 正、佐々
木美晴、岡田美智子、牧田まり子、野中教世、
遠藤朱美、塚本ひとみ、福島裕子、吉田佳枝、
大塚倍恵、前田弘子、榎本康世、永野千鶴、直
里佳子、池谷綾子、青島由里子、山村加寿子、
池ヶ谷幸恵、井上暢子、斎藤紀子、太田明子、
青山治子、鈴木公子、市川昭美、石黒裕子、勝
山 徹、中川雅之、金森久美子、赤池正久、丹
羽潤児、石向鶴男、望月義弘、近藤 仁、小泉
建二、荒井知子、秋山礼子、鈴木吉明、鈴木光
枝、米津宜則、外 輝雄、杉本直樹、久保田美
保子、佐藤景二、後藤 彰、中野雅代、池ヶ谷
博英、齊藤克己、山本紀夫、清水正見、齋藤隆
之、斎藤真弘、望月茂昭、松田光広、金井浩一、
多々羅一美、内田隆夫、市川智章、川口則行、
向島光太郎、白鳥吉章、日下部幸伸、寺田和弘

幹事 原田収司

開催日 運営会議以後2回目の金曜日に定例開催した。

⑧ 医療倫理審査委員会

目的 静岡市立静岡病院における医療の倫理性と患者
の人権保護に関する基本的事項を審議し、病院
職員の倫理意識の向上に資することを目的とす
る。

委員長 滝澤 明憲

副委員長 宮下 正

委員 水野薫子、松本芳博、池上 聡、五十嵐健康、
岡田美智子、鈴木公子、吉川直子、石黒裕子、
清水正見、佐藤景二、齊藤眞弘

外部委員 松田 純、高木雅宏、村上隼夫

事務局 高山 淳、櫻井もえ美

開催記録

回	開催日	受付番号	案 件	科
1	5月27日	1	「がん告知をされた患者の闘病姿勢と人生脚本との関係について -患者へのインタビューをエゴグラムと人格適応論で分析して-	ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科臨床心理学専攻修士課程 増田 早苗
		2	整形外科手術患者における末梢動脈疾患合併の頻度と合併における影響	整形外科
		3 (迅速)	人工血管置換術における輸血量の多施設共同比較調査 (日常診療で得られた情報を用いて調査機関に患者登録する研究)	心臓血管外科
2	8月5日	4 (迅速)	冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験 (REAL-CAD) (実施分担者の変更)	循環器内科
		5	術前トレッドミル負荷心電図の有効性の検討 -VO ₂ maxの代替法として-	呼吸器外科
		6	整形外科手術患者における末梢動脈疾患合併の頻度と合併における影響についての研究	整形外科
		7	リトドリンの胎児発育に関する研究	産婦人科
3	10月7日	8 (迅速)	日本国内の脳神経血管治療に関する登録研究2 (日常診療で得られた情報を用いて調査機関に患者登録する研究)	脳神経外科
		9	糖尿病および高血圧を合併する高コレステロール血症患者に対するスタチンの標準治療あるいは積極治療による一次予防の検討 (POSITIVE試験)	内分泌・代謝内科
		10	C型肝炎患者の再燃例に対するPEG-IFN α-2b+Ribavirin 72週間投与の有用性と再燃例およびナイーブ症例での有用性に対する因子の検討 (静岡県内多施設共同研究)	消化器内科
		11	ST上昇型急性心筋梗塞患者におけるβ遮断薬の有効性を検証する多施設共同無作為比較試験	循環器内科
		12	内耳関連蛋白解析の臨床応用 外リンパ瘻診断	耳鼻咽喉科
		13	「低リスク安定狭心症に対する薬物療法とインターベンション療法の予後に関する無作為介入試験 (JSAP Study) の長期予後調査研究」の後ろ向き長期予後調査研究	循環器内科
臨時	11月10日	14	リスクが極めて高い外科手術の適応についての諮問	心臓血管外科

4	12月2日	15	「心房細動例における心原性塞栓症予防のためのワルファリン療法の実態と至適PT-INR治療域の確立に関する多施設共同研究 (J-RHYTEM Registry)」出血リスクの評価のための追加調査	循環器内科
		16	急性大動脈解離に関する全国規模調査	心臓血管外科
		17	PCI後のRoutine Follow-up Coronary Angiographyの有用性を検討する多施設前向き無作為化試験	循環器内科
		18	Stage II/III結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOLFOX6療法の認容性に関する検討	外科
		19	外科系の専門医制度と連携したデータベース事業 「National Clinical Database」への参加について	外科
		20	間質性肺炎合併肺癌患者における術後急性増悪に関連する因子の探索 -多施設共同後向きコホート研究-	呼吸器外科
		21 (迅速)	1型糖尿病関連遺伝子群の多施設共同調査 (期間の延長)	内分泌・代謝内科
		22 (迅速)	CREDO-Kyoto Cohort II 非保護左主幹部病変および多枝病変におけるSYNTAX Scoreと予後との関係 (追加調査)	循環器内科
		23	糖尿病および高血圧を合併する高コレステロール血症患者に対するスタチンの標準治療あるいは積極治療による一次予防の検討 (POSITIVE試験)	内分泌・代謝内科
5	2月9日	24	血糖コントロール不十分な2型糖尿病に対するDPP-4阻害薬の有用性に関する研究	内分泌・代謝内科
		25	家族性高コレステロール血症に対する脂質低下療法の有効性および安全性に関する調査 (FAME)	内分泌・代謝内科
		26	高リスクを有する高血圧患者における各種バイオマーカーと心血管イベント発症とに対するアンジオテンシンII受容体拮抗薬 (ARB) の効果 (多施設共同研究・比較試験) : ATTEMPT (A Trial of Telmisartan Prevention of Cardiovascular Diseases) 試験	内分泌・代謝内科
		27	再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方指摘症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究	血液内科
	3月7日 (迅速)	28 (迅速)	CREDO-Kyoto Cohort II 非保護左主幹部病変および多枝病変におけるSYNTAX Scoreと予後との関係 (追加調査)	心臓血管外科
	3月22日 (迅速)	29 (迅速)	家族性脊髄小脳変性症および痙攣性対麻痺の臨床的遺伝子診断	神経内科

【臨床研究倫理セミナー】

① 7月8日 (木)

出席者：医師14名、看護師6名、コメディカル1名、計21名

② 7月14日 (水)

出席者：医師17名、看護師18名、その他1名、計36名

統括コメント

平成22年度は委員会を通常5回（迅速審査7回）、臨時1回、計6回開催し、29件の案件の審議を行った。

昨年度の審議件数17件から本年度は審議件数29件と増加した。1回の委員会に諮る審議件数も増えたため、以前に医療倫理審査委員会で審議、承認した案件の追加調査等については、迅速審査に諮るようにした。

7月には、昨年度に引き続き「臨床研究倫理セミナー」を開催し、医師、看護師等がセミナーを受講した。臨床研究の申請には、実施者、実施分担者ともにセミナーの受講が必要なため、大多数の医師がセミナーを受講した。
(滝澤明憲)

⑨ 学術臨床研修委員会

目的 医療及び看護技術向上のため、職員の教育、研修、研究に関する事項、年報編集に関する事項並びに、臨床研修の教育・研修に関する事項を審議する。

委員長 平田 健雄

副委員長 千原 幸司

委員 小野寺知哉、石橋孝文、深澤誠司、松本芳博、前田賢人、濱村啓介、野中教世、井上暢子、鈴木公子、今村展子、塩坂文緒、岩堀聖子、内田秀子、齋藤克己、杉原辰雄

幹事 鈴木 暁

開催記録

平成22年8月30日（月）

- (1) 病院フェア2010の開催について
- (2) 平成21年度病院年報の発行について
- (3) 救急セミナー企画について
- (4) 学術集談会企画について
- (5) 研修スケジュールの管理について

⑩ 保険診療対策委員会

目的 診療報酬の請求、査定に関する事項を審議する。

委員長 平田健雄

副委員長 山崎文郎

委員 村田耕一郎、松本芳博、望月敏弘、前田明則、原 秀、佐野倫生、遠藤朱美、直里佳子、鈴木吉明、足立高志

幹事 川口則行

開催記録

平成22年度は開催しませんでした。

⑪ 感染対策委員会

目的 院内における微生物の感染を積極的に防止し、

院内衛生管理に万全を期す。

委員長 岩井一也

副委員長 山崎文郎

委員 島本光臣、佐野武尚、鶴田悟、竹花卓夫、牧田まり子、池谷綾子、青山治子、直里佳子、田中良枝、園田幸弘、杉本直樹、佐藤景二、原田収司、中西一陽、別府貴文

幹事 市川智章

開催記録

平成22年4月14日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について
3. 院内感染マニュアル改訂について
4. 新人医師に対する指導について

平成22年5月19日（水）

1. インフルエンザ予防接種について
2. 入院患者感染情報報告
3. ICT会議の報告と確認について

平成22年6月9日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について
3. 気胸ガスに対するフィルター使用について

平成22年7月14日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について

平成22年8月11日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について

平成22年9月8日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について

平成22年10月13日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について
3. クーリングタワーのレジオネラ培養検査結果について
4. 呼吸器内科、採痰ブース設置について

平成22年11月17日（水）

1. 新鮮凍結血漿融解装置の導入の推奨について
2. 入院患者感染情報報告
3. ICT会議の報告と確認について

平成22年12月8日（水）

1. 入院患者感染情報報告
2. ICT会議の報告と確認について
3. インフルエンザ患者の外來受付について

平成23年1月12日（水）

1. 入院患者感染情報報告

2. ICT会議の報告と確認について
平成23年2月9日(水)

1. 入院患者感染情報報告
2. インフルエンザ発生状況について
3. ICT会議の報告と確認について

平成23年3月9日(水)

1. 入院患者感染情報報告
2. インフルエンザ発生状況について
3. ICT会議の報告と確認について

◎講演会

日時：平成22年9月13日(月)

テーマ：『標準予防策に関すること』

対象：当院勤務職員

講師：県西部浜松医療センター

副院長 矢野 邦夫 先生

参加者：156人

日時：平成22年12月17日(金)

テーマ：『身体診察を活かしたベッドサイドの
感染症診療』

対象：当院勤務職員

講師：市立堺病院

総合内科部長 藤本 卓司 先生

参加者：56人

◎『ICT学習発表会&講演会』

日時：平成23年3月2日(水)、9日(水)

テーマ：

1. 針刺しに関するエピネット集計結果報告
2. 院内感染サーベイランス
3. ICTラウンド報告

(H22. 10. 13(水)、11. 10(水))

講師：院内感染対策委員会委員

参加者：323人

(2日：146人 9日：177人)

総括コメント

当院でもようやく念願の感染管理認定看護師が誕生した。静岡県での認定看護師は比較的多く、約25名が認定されている。当院と同規模の急性期病院では2、3名いるところもある。近年、医療安全という観点から院内感染を制御するための様々な取り組みが重要視されてきている中、ICTおよび院内感染対策委員会が関与すべき業務はより広範にまた専門的になってきている。これらの業務を適切に遂行するためには専門的知識をもった認定看護師の役割は大きい。

ICTでは感染管理をよりよく実現するために重点項目

を掲げている。特に職員教育、標準予防策の順守は最も大事な事項であると認識し、継続的に活動を続けている。また院内でのアウトブレイクは迅速な対応が必要であり、現場の情報収集、職員への適切な指導が必要である。これらの活動が従来よりもまして迅速、適切かつ効果的に行われ少しでも院内感染のリスクを低下させることができるよう、認定看護師の働きに期待したい。

(岩井一也)

⑫ 衛生委員会

目的 労使が互いに協力し、労働条件の改善等を通じて職場における職員の安全と健康を確保するための審議をする。

委員長 清水正見

副委員長 齋藤隆之

委員 前田明則、岡田美智子、石黒裕子、赤池正久、鈴木貴子、望月雅貴、関しま子、乙丸亨、岩田和彦

衛生管理者 遠藤朱美、永野千鶴、望月一人

産業医 望月敏弘

作業主任者 多々羅一美

衛生推進者 柴山晃一

幹事 原田収司、中西一陽

実施日	衛生委員会	実施内容	備考
4月26日(月)	第1回	平成22年度衛生委員会改選名簿について 平成21年度公務災害発生状況について 特別延長時間外実績(3月分)院内巡視(東8階)点検結果について	
5月24日(月)	第2回	公務災害の認定について 特別延長時間外実績(4月分)院内巡視(東7階)	
6月28日(月)	第3回	特別延長時間外実績(5月分)院内巡視(東7階)点検結果について 院内巡視(東6階)	
7月26日(月)	第4回	特別延長時間外実績(6月分)平成21年度有給休暇使用実績について 院内巡視(東5階)	
8月23日(月)	第5回	特別延長時間外実績(7月分)院内巡視(東5階)点検結果について 院内巡視(東4階)	
9月27日(月)	第6回	特別延長時間外実績(8月分)院内巡視(東4階)点検結果について 院内巡視(東3階)	
10月25日(月)	第7回	特別延長時間外実績(9月分)院内巡視(東3階)点検結果について 院内巡視(東2階)	

11月22日(月)	第8回	特別延長時間外実績(10月分)院内巡視(東2階)点検結果について 院内巡視(東1階)
12月27日(月)	第9回	特別延長時間外実績(11月分)平成22年度上半期(4~9月)の時間外勤務の分析・縮減策について 院内巡視(東1階)点検結果について 院内巡視(東B1階)
1月24日(月)	第10回	特別延長時間外実績(12月分)平成22年度夏季休暇取得状況について 院内巡視(東B1階)点検結果について 院内巡視(西12階)
2月28日(月)	第11回	特別延長時間外実績(1月分)院内巡視(西12階)点検結果について 院内巡視(西9階)

総括コメント

職員の安全と健康の確保のために、時間外勤務の状況、公務災害の状況等を把握してきた。

その他、職場巡視を行うことにより、より良い職場環境の整備に努めてきた。

特に、時間外勤務については、状況の分析および縮減策について検討した。

個々の状況を継続的に把握し、過重労働とならないよう今後も注意していきたい。

⑬ 電算委員会

目的 病院事業の電算化システムについて、検討、審議、決定する。

委員長 清水言行

副委員長 山田 孝

委員 濱村啓介、牧田まり子、野中教世、市川昭美、池ヶ谷幸恵、中川雅之、塚本剛生、鈴木吉明、望月義弘、興津英和、久保田美保子、望月茂昭、青山典正、岡本浩明、島崎早苗、長島健一、齊藤眞弘

幹事 高山 淳

開催記録

第1回 平成22年5月17日(月)

- 議題
1. 救急医師の代行入力について
 2. 投与期間に制限のある投薬について
 3. 警告のでない禁忌薬剤のシステム的な対応について
 4. 外来病名の入力について
 5. 重症系システムについて

第2回 平成22年6月14日(月)

- 議題
1. 重症系システムについて
 2. 保険の切り替えについて

3. 患者禁忌薬チェック機能について

4. 障害時対応マニュアルについて

第3回 平成22年7月12日(月)

- 議題
1. 重症系システムについて
 2. 保険の切り替えについて
 3. 障害時対応マニュアルについて
 4. カルテ参照表示期間について

第4回 平成22年9月6日(月)

- 議題
1. 重症系システムについて
 2. 病院指標作成におけるエクセルからのサマリ参照について
 3. 障害時対応マニュアルについて

第5回 平成22年10月4日(月)

- 議題
1. 指示に関する運用について

第6回 平成22年11月8日(月)

- 議題
1. 法定停電について

第7回 平成22年12月13日(月)

- 議題
1. 法定停電問題点について
 2. 病理報告書等の確認について
 3. 診療予定の指示欄について
 4. 職種をまたいで経時的に追記していく文書について

第8回 平成23年1月24日(月)

- 議題
1. イージーイーターネットの提案

第9回 平成23年3月7日(月)

- 議題
1. レポート参照・病理結果報告について

統括コメント

昨年度まで電算委員会は、システム検討部会としてコアメンバーでの検討会を毎月行ってきたが、今年度からは電算委員会としてはほぼ1ヶ月に1度委員会を開催するように変更した。平成20年10月に電子カルテに移行し、小さな問題はあるものの診療に重大な障害を来たすことなくシステムは稼働している。今後も医師、看護師等の要望に応えるよう検討を続けていく。(清水言行)

⑭ 薬剤委員会

目的 当院で使用する医薬品の選定、管理および適正使用について審議する。

委員長 宮下 正

副委員長 石黒裕子

委員 平田健雄、佐々木美晴、小野寺知哉、岩井一也、横島孝至、斎藤隆之、望月茂昭、池ヶ谷幸恵、齊藤紀子、岡本浩明

幹事 勝山 徹、金森久美子、山本紀夫、伊藤 弘、近藤弘康、(長島健一：DPC担当)

開催記録

開催日	臨時購入 (品目数)	新規採用 (品目数)	院外処方専用 (品目数)	中止 (品目数)
①平成22年4月8日	5	6 後発品 1		4 先発品 1
②平成22年6月10日	4	11		7
③平成22年8月12日	7	9 後発品 2	3	8 先発品 2
④平成22年10月14日	4	9 後発品 1	2	2 先発品 1
⑤平成22年12月9日	6	15 後発品 3		11 先発品 3
⑥平成23年2月10日	12	6 後発品 1		5 先発品 1

総括コメント

<DPC対策として>

1年間の統計データに基づき、後発品への切り替え効果が見込める医薬品のシミュレーションが提示され、見積価格を考慮の上、8品目の後発品への変更を行った。

DIC治療における「主病名あるいは最も病名」をDICにすることの必要性が説明され、「DICセミナー」を開催した。

<院外処方箋不正コピー防止対策について>

院外処方箋不正コピーの実態報告をふまえ、電子カルテ内の不正コピー防止印刷機能を用いることにした。

<採用医薬品数の当院算定基準について>

対象を薬価収載品（血液類、放射性医薬品を除く）とワクチンとする。内服薬のPTP包装とバラ包装は同一とする。同一グロブリン製剤の高抗体価製剤別による仕分はしない。

等を、決定した。

<麻薬注射剤の分割施用について>

厚生労働省の麻薬管理マニュアルや静岡県麻薬管理手引き等の記載を踏まえた上で、当院の麻薬注射剤の分割施用についての取り扱い基準を定めた。

<その他>

分子標的薬や適応症の限定された抗がん剤等の発売が増加し、「一増一減」ルールの維持が難しくなりつつある。また治療上、必要不可欠な高額医薬品が増え、医薬品購入額が増加している。（宮下 正）

⑬ 物品調達委員会

目的 病院が購入し使用する全ての物品（医薬品、診療材料、高額医療機器等）の調達に関する基本事項及び病院で使用する診療材料等の採用、廃止に関する事項を審議し、物品の適正かつ効率的な購入と管理を図る。

委員 委員長 望月茂昭

副委員長 斎藤隆之

委員 小野寺知哉、清水言行、高橋好朗、長谷川和樹、佐野倫生、井上暢子、青山治子、直里佳子、土屋千賀子、久保浩、

恒川典子、小泉健二、鈴木吉明、佐藤景二

幹事 松田光広、岡本浩明、青山典正、近藤弘康、榊原靖教

開催記録

平成22年5月27日（木）

- 1 バイオパッチほか37品目の採用と9品目の採用中止を決定した。
- 2 新規に購入する診療材料は納入価の引き下げに努める。

平成22年7月29日（木）

- 1 マイクロサージェリーナイフほか30品目の採用と4品目の採用中止を決定した。
- 2 新規に購入する診療材料は納入価の引き下げに努める。

平成22年9月30日（木）

- 1 エンドリブリほか134品目の採用と1品目の採用中止を決定した。
- 2 新規に購入する診療材料は納入価の引き下げに努める。

平成22年11月30日（火）

- 1 アドバンタPTFTグラフトほか72品目の採用と6品目の採用中止を決定した。
- 2 新規に購入する診療材料は納入価の引き下げに努める。

平成23年3月1日（火）

- 1 Duration膝蓋骨コンポーネントほか60品目の採用と4品目の採用中止を決定した。
- 2 診療材料における価格交渉に供するため、診療材料等ベンチマークシステムの導入を可とした。
- 3 平成23年度購入予定の診療材料単価契約の実施及び見積参加者選定の審議。

総括コメント

当委員会関連の平成22年度の主な支出として、薬品費35億8,879万円、診療材料費21億4,858万円、医療機器購入費3億4,161万円の支出をした。

医療機器の購入については、市の中核病院として、また、高度医療を担う病院として、医療技術の進歩に遅れをとらないよう医療機器等の整備充実を図っており、常に予算の効率的運用を念頭におきながら、適正かつ合理的で、できる限り安価に機器購入を行うよう努めている。

なお、購入後の機器の効率的な稼働が病院経営にとって重要であり、職員個々の医療機器を含めた物品への管理責任と原価意識をより一層培っていきたい。

また、病院会計の支出で大きな割合を占めている薬品費及び診療材料費については、清水病院と一体となって

価格交渉を実施し、予算の効率的な執行と経費削減に病院全体で努めていく。
(望月茂昭)

⑩ 臨床検査業務委員会

目的 臨床検査業務の効率化の向上及び検査技術科と他部門との相互の連絡と、業務に関わる諸問題を審議し、円滑化を図る。

委員長 森木利昭

副委員長 荒井知子

委員 平田健雄、小野寺知哉、脇 昌子、山崎文郎、石橋孝文、田中俊夫、竹花卓夫、太田明子、市川昭美、渡辺林子、赤池正久、日浅俊介、中西一陽、望月茂昭、市川智章、秋山礼子

幹事 鈴木吉明

開催記録

平成22年6月25日(金)

1. 平成21年度統計報告
2. 各部署別業務報告
 - (1) 採血室
 - ① 外来採血者推移
 - ② 採血待ち時間状況
 - (2) 中央分析室
 - ① 時間内、時間外検査報告時間状況
 - ② 平成21年度生化学Iまるめ依頼状況
 - ③ 平成21年度外注検査依頼状況
 - (3) 生理機能検査室
 - ① 年度別超音波検査件数の動向
 - ② 超音波検査件数のDPC前後の比較
3. 検査試薬の変更について
FER,RF,KL-6,血中薬物
4. 平成21年度院内取り込み検査項目状況(CA15-3)
5. 平成22年度診療報酬改定に伴う効率的検査オーダー
 - ① 中央分析室
 - ② 生理機能検査室
 - ③ 病理検査室

総括コメント

平成21年度統計からは、総件数は前年度比で7.1%、点数では15.2%増となっている。DPC制度が導入され、検査が外来へ移行している様子はみられないが、診療報酬改定による検査の包括点数は削減されており、引き続き効率的検査オーダーが望まれる。検査機器の稼働率の向上、外注検査の院内実施、専用機器から汎用機器への変更等によりコスト削減、収益増に努めている。今後は老朽化して行く検査機器を計画的に更新しさらなるコスト

削減、改善に繋げて行きたい。

(森木利昭)

⑪ 放射線業務委員会

目的 放射線診断科：放射線科：放射線技術科：の運営に関する事項を審議する。

委員長 濱村啓介 副委員長 赤池正久

委員 村田耕一郎、原 秀、松下 聡、野中教世、池谷綾子、太田明子、丹羽潤児、石向田鶴男、増田秀道

開催記録

開催日 平成23年3月30日(水)

- 1) 平成21年度放射線技術科検査統計報告
- 2) CT造影剤の効率化について
- 3) CT・MRIの同意書のオンライン取り扱いについて。
- 4) オープン検査の画像診断依頼内容が明らかに不十分な場合の対応について。
- 5) 夜間・休日の準緊急CTのオーダーをメール機能を利用し、CT検査室に伝達する方法の施行について。

【報告事項】

- 1) 原子力安全センターの立ち入り検査は問題なく終了した。
- 2) 遠隔画像診断の検査リスト配信する方法がディスクネット上の伝言板からPrimeKart内のメールに変更された。
- 3) 骨密度測定装置が更新され、検査結果はPrimeKarteで画像検査と同じように見ることが出来る。

総括コメント

3月30日に業務委員会を開催した。造影剤の導入、廃止については、各製薬会社からの懇願もあり、各社に著しい損得の生じないよう配慮したが、業務の便宣上は、できる限り単純化したいので、引き続き検討する予定である。造影剤使用に関する同意書については、紙面での運用を残さなければならないなど、様々な問題が残っており、安全と効率を両立できるよう、工夫を続けたい。委員会は、案件が発生する頻度に応じて、開催することになっているが、画像診断に関わる問題は、決して低頻度ではなく、今後、より頻回に開催する必要性を感じている。
(濱村啓介)

⑫ 救急業務委員会

目的 救急業務の円滑な運営を図るため救急診療に関する事項について審議する。

委員長 前田賢人 前田明則

委員 小黒克彦、野口哲哉、佐野武尚、綾部裕子、竹

花卓夫、土井光人、原 秀、野中教世、池谷綾子、岩堀聖子、森 桜子、恒川典子、増田秀道、米津宜則、興津英和、増田治乃、望月一人
幹 事 鈴木慎一

開催記録

平成22年4月8日(木)
3月分CPAOAの検討
3月分内科初診外来の現況報告
死亡診断書等の記載方法について
日中に救急車で運ばれる患者について
新任医師のオリエンテーションについて
平成22年5月13日(木)
4月分CPAOAの検討
4月分内科初診外来の現況報告
振り分け困難症例について
交通事故・労災での診療について
救急外来での初期診療の徹底について
平成22年6月3日(木)
5月分CPAOAの検討
5月分内科初診外来の現況報告
救急外来の診療科振り分け表について
交通事故・労災での診療について
診療情報提供書及び紹介状の返書について
ゴールデンウィーク期間中の報告について
救急セミナーについて
平成22年7月8日(木)
6月分CPAOAの検討
6月分内科初診外来の現況報告
救急士の実習について
平成22年8月5日(木)
7月分CPAOAの検討
7月分内科初診外来の現況報告
尿中の乱用薬物検出キットの購入について
救急の脳神経外科患者の対応について
平成22年9月9日(木)
8月分CPAOAの検討
8月分内科初診外来の現況報告
内科当直医の人員確保について
救急セミナーの開催について
髄膜炎疑いのある患者に対するMRI検査について
平成22年10月7日(木)
9月分CPAOAの検討
9月分内科初診外来の現況報告
尿中の乱用薬物検出キットの使用について
平成22年11月4日(木)
10月分CPAOAの検討
10月分内科初診外来の現況報告

尿中の乱用薬物検出キットの使用について
患者満足度調査の実施について
アナフィラキシーに関する指標の作成について
平成22年12月9日(木)
11月分CPAOAの検討
11月分内科初診外来の現況報告
乱用薬物検出キットの使用により薬物が検出された場合について
平成23年1月9日(木)
12月分CPAOAの検討
12月分内科初診外来の現況報告
乱用薬物検出キットにより薬物が検出された場合について
アナフィラキシーに関する指標の作成について
年末年始の報告について
平成23年2月3日(木)
1月分CPAOAの検討
1月分内科初診外来の現況報告
乱用薬物検出キットの使用の開始について
専攻医の人員確保について
平成23年3月3日(木)
2月分CPAOAの検討
2月分内科初診外来の現況報告
乱用薬物検出キットの使用に際しての同意書の作成について
時間外における診療所から紹介の産婦人科患者の受け入れについて
精神科合併症患者の受け入れについて

⑩ 手術業務委員会

目 的 手術室の円滑な運営をはかり、関係各診療科間の調整を行う。

委員長 加藤茂久

副委員長 佐々木美晴

委 員 野口哲哉、玉里滋幸、水野薫子、宮本日出雄、山崎文郎、富田浩一、深澤誠司、大和 雄、廣瀬美央、米沢 圭、池上 聡、野中教世、直里佳子、園田幸弘、石向田鶴男、綾部涼夫、大隅 進

幹 事 荒武百合子、多々羅一美

開催記録

- 平成22年4月23日(金) 第62回開催
 - (1) 故障したCアームについて
 - (2) 鏡視下手術用の内視鏡機器運用について
 - (3) スリッパ運用について
- 平成22年9月10日(金) 第63回開催
 - (1) 手術申し込みについて

- (2) 麻酔科管理の手術枠の見直しについて
- ・平成22年12月10日(金) 第64回開催
 - (1) 男子ロッカーの鍵について
 - (2) 手術室床材補修について
 - (3) 17時以降の手術について
 - (4) 麻酔科枠について
- ・平成23年3月4日(金) 第65回開催
 - (1) 術前HIV検査について
 - (2) 手術枠、麻酔枠について
 - (3) 手術室申し込みについて
 - (4) 診材、減耗損について
 - (5) 術中透視のデータ化について
- ・平成23年3月23日(水) 第66回臨時開催
 - (1) 東日本大震災の影響による診材不足などについて

統括コメント

平成22年度は計5回開催された。年間を通じて問題となったのは17時以降に延長する手術の更なる増加であり、手術時間短縮、申込時間適正化のお願いが手術室より再三なされた。しかし目立って改善したとは言い難い。ここ数年、手術件数は年々増加しており緊急手術も増加している。不安定な麻酔科医のマンパワーも考慮に入れた手術枠・麻酔科枠の見直しは次年度以降の大きな課題となろう。また3月11日の大震災により手術関連物品の供給不足が懸念されたため3月23日朝に臨時で委員会を開催したが、手術を制限する程の供給逼迫との情報はなく、病院長の方針もあり実際に手術制限をすることはなかった。(加藤茂久)

㉑ 外来業務委員会

目的 外来業務に関する諸問題について健診業務と連携し円滑な運営を図る。

委員長 脇 昌子

副委員長 石橋孝文

委員 田中俊夫、望月敏弘、村田耕一郎、山田 孝、竹花卓夫、野中教世、吉田佳枝、池ヶ谷幸恵、中川雅之、丹羽潤児、桑山安代、興津健吾、重松 武、金井浩一、白鳥吉章

幹事 川口則行

開催記録

平成22年4月19日(月)

- 1 メディカル・クラークの業務について
- 2 メディカル・クラークの配置について
- 3 外来配置の問題点について

平成22年6月10日(木)

- 1 精神科外来について

- 2 外来診療時間について
 - 3 院内掲示物の表記方法
- 平成22年9月2日(木)
- 1 神経内科外来について
 - 2 時間外診療時間について
 - 3 メディカル・クラークについて
 - 4 省エネ照明器具の設置工事について

平成22年9月27日(月)

- ・神経内科外来について

平成22年11月4日(木)

- 1 呼吸器内科外来について
- 2 眼科外来について報告

平成22年12月20日(月)

- 1 外来診療について
- 2 病診連携について

平成23年3月10日(木)

- 1 神経内科外来について
- 2 整形外科外来について
- 3 自動販売機の設置について

㉒ 病棟管理委員会

目的 病棟全体の円滑な運営に努めるとともに、病棟間の調整について看護業務と連携をとり審議する。

委員長 宮下 正

副委員長 山崎文郎

委員 前田賢人、東 卓司、小柳津竜樹、松田宏幸、村田耕一郎、岩井一也、横島孝至、遠藤朱美、大塚倍恵、井上暢子、前田弘子、土田裕美、塚本剛生、後藤善人、杉本直樹、金井浩一

幹事 岡本浩明、三浦和宏

開催記録

平成22年12月9日(木)(分会として開催)

10対1入院基本料に係るベッドコントロール対策について

平成22年12月16日(木)(分会として開催)

ベッドコントロール対策について(再)

平成23年4月21日(木)

各診療科の病床数について

入院中の患者の他院受診について

㉓ 医療廃棄物管理委員会

目的 当院が排出する医療廃棄物について審議し、その適正な処理に努める。

病院で使用する医療ガス及びその設備の保安管理を図り、患者の安全を確保する。

委員長 松本芳博

副委員長 望月茂昭

委員 加藤茂久、岩井一也、富田浩一、牧田まり子、
直里佳子、鈴木芳治、望月義弘、杉本直樹、大
隈 進、小澤隆宏

幹事 多々羅一美

開催記録

平成22年7月1日(木)

- (1) 医療廃棄物の処理状況報告
- (2) 平成22年度医療廃棄物処理業者について
- (3) 平成22年度医療ガス設備保守点検について

院内から排出される感染性医療廃棄物の処理量は増加しているため、(平成20年度162万リットル、平成21年度183万リットル)職員への啓発を行い排出量、処理費用削減に努める。

医療ガス設備については、定期的な保守点検により適正に維持管理を行っていく。(松本芳博)

⑭ 災害時医療対策委員会

目的 防火管理業務及び地震防災応急計画について必要な事項を定め、火災・地震・その他の災害を想定した訓練を実施し、人命の安全並びに被害の軽減・防止を図ることを目的とする。

委員長名 千原幸司

副委員長 望月茂昭

委員 小野寺知哉、深澤誠司、松本芳博、前田賢人、高橋好朗、富田浩一、佐野倫生、山田 孝、村田耕一郎、野口哲哉、池上 聡、牧田まり子、榎本康世、斎藤紀子、池谷綾子、吉田佳枝、坂上朋子、池ヶ谷博英、小山暢之、丹羽潤児、岩田和彦、大隅 進、久保田美保子、原田収司、中西一陽、市川智章、鈴木慎一

幹事 小澤隆宏

開催記録

平成22年6月14日(月)

- (1) 平成22年度の災害時医療対策委員会の年間予定
 - (a) トリアージ訓練(7月、来年1月頃予定)
7月12日(月曜日);災害時医療講習会
18:00から 西館12階講堂
7月13日(火曜日);トリアージ実技指導の基礎訓練
18:00から 東館正面玄関及び西館1階外来待合
新規採用の医療職員を対象に行う。
 - (b) 情報伝達訓練(9月)防災の日
 - (c) 夜間防災訓練(日程について後日検討)

(d) トリアージ訓練(1月中旬頃)

- (2) 訓練概要等;対策本部の立ち上げ、災害時における機材、各担当部署の流れ等
平成22年7月13日(火) 18:00から トリアージ基礎訓練(オムニバス形式)
 - (1) トリアージ実技指導の基礎訓練
 - (a) 新規採用の若手医療職員を対象にしたトリアージの実技指導訓練
* トリアージのデモンストレーション;ベテラン医師の指導
* 搬送訓練;コメディカル、若手医師等
* 治療ゾーン;ベテラン医師の指導
* 西館2階でBLS【AEDの使用法指導】
* 各部署では、防災マニュアルの再確認
 - (b) 医療機器の準備;臨床工学科及び病院施設課物品管理担当
* 災害時における医療機器及び器材の準備
 - (c) 病院配属各新規職員の流れ;事務職員(病院総務課・医事課等)
* 災害対策本部;西館1階
* 被災情報収集;病院総務課
・外部(県・その他)との災害情報の発信
・被災者情報;外部からの照会・マスコミへの対応
・ボランティアの受け入れ対応等
* 被災書への対応;医事課
・トリアージセンターの受け入れ事務
・各治療ゾーンの対応事務
・ピンクカルテの流れ及び回収
 - (d) 院内の建物被害及びライフラインの被害調査(電気・ガス・水道等);看護科
・病院施設課施設管理担当
* 各病棟内の建物被害及びライフラインの被害状況;看護科
* 各施設内の建物被害及びライフラインの被害状況;病院施設課

平成22年8月9日(月)

- (1) トリアージ訓練における反省点
 - (a) 西館1階災害対策本部前にホワイトボードを配置し、災害対策本部が人員参集状況の把握確認
 - (b) 訓練時における参加職員の履物が大変危険・・・注意を喚起する
- (2) 平成22年度静岡病院消防計画修正見直しについて【運営会議】に報告
 - (a) 消防計画の修正見直し箇所及び追加項目の報告
 - (b) 病院自衛消防組織図;任務表の修正

平成22年9月13日（月）

(1) 夜間防災訓練について

(a) 夜間防災訓練；看護科

日時；11月頃及び時間未定

場所；東館10階病棟を予定

(b) 昨年時の夜間防災訓練【東館8階】の反省点について報告

(2) 災害時医療【DMAT】の検討について

(a) 「DMAT」指定医療機関病院

* 「DMAT」派遣に協力する意志を持ち、厚生労働省又は都道府県に指定された医療機関

* 静岡県内には、東部・中部・西部地区内の9拠点病院を指定

・ 中部地区；3拠点病院

(県立総合病院・済生会病院・静岡赤十字病院)

(b) 「DMAT」指定医療機関への登録

* 都道府県が管内の病院を「DMAT」指定医療機関として指定し、厚生労働省にその旨を報告

* 「DMAT」指定医療機関の要件を満たす病院

・ 災害拠点病院であることが望ましい

・ 医療機関としてDMAT派遣を行なう意志を持つ

・ DMATの活動に必要な人員、装備を持つ

・ 都道府県は、管内のDMATの指定医療機関について災害時の業務計画に明示し、運用に関する必要な事項について協定を締結

(c) 「DMAT」隊員の登録

* 厚生労働省は、災害医療センター等で実施される「日本DMAT隊員養成研修【日本DMAT活動要領より、3泊4日チーム単位で参加】」を修了した者又はそれと同等の学識・技能を有する者を「DMAT」登録者として認証

* 「DMAT」隊員は、1チームを5人で編成【医師；2名・看護師；2名・薬剤師等；1名】

(d) 当病院における「DMAT」への登録の可能性

* 静岡県が指定病院への候補に当病院を選定しなければ不可

(e) 全国及び静岡県内の「DMAT」の登録状況

* 国は、全国で1,000チームを整備目標としている。(平成22年3月現在)703チームが登録

* 静岡県内では、18チームが登録

* 静岡県においては、現在、災害拠点病院を中心に各施設2チームの整備を進めようと考え

ている。

* 伊豆地域等の未整備な場所が有り、すでに3施設6チームが整備されている中部地区（静岡医療圏）での増設は優先度が低い。

(3) 災害用伝言ダイヤルの周知について

(a) 災害用伝言ダイヤルの使用方法を周知

平成22年10月18日（月）

(1) 東館での夜間防災訓練について

* 訓練日；平成22年12月3日（金曜日）

18：00から

訓練場所；東館10階病棟

(a) 夜間防災訓練の訓練シナリオ概要は病棟で検討

①情報伝達・・・病棟内の非常電話を使用（火災時には非常電話に統一）

・ 院内PHS電話からの情報伝達はしない

・ 訓練の評価について・・・行動チェック（チェックリスト）用紙を検討

②避難誘導患者等の対応

・ 各病棟及び検査技術科・放射線科からの応援職員で対応

・ 患者避難誘導方法・・・西館10階へ水平避難（重症患者を想定）

・・・東館下層階へ垂直避難（独歩患者を想定）

③訓練見学職員の対応等

(2) 災害時医療【DMAT】の再検討について

(3) DMAT指定病院（県立総合病院）参加医師の講演会について

* 新潟県中越地震等へ派遣された参加医師の詳細な話を聞く講演会を開催

平成22年11月8日（月）

(1) 夜間防災訓練実施要領について

訓練日；平成22年12月3日（金曜日）

18：00から

訓練場所；東館10階病棟内洗濯機置場付近を想定

(2) 訓練想定シナリオ

* 今回の訓練では、行方不明患者の避難には、消防梯子車の要請は「無」

* 院内PHS電話の使用はしない

* エレベータは使用できない

* 情報伝達には、非常用電話を使用【出火階から東館1階防災センター間】

(a) 訓練目的

* 高層階における避難経路の確保

* 東館10階病棟の非常事態に備え患者の誘導・避難の的確な判断により情報伝達や連絡体制

を確立し、入院患者の安全を確保

- *限られた人員の中で、防火管理体制を整備
- *出火階からの情報伝達
- *避難先及び応援スタッフへの避難誘導の指示、手順の検討
- *他職種部門との応援体制や連携の検証
- *患者の症状や状態にあった搬送方法及び安全な避難誘導等
- ①災害時医療対策委員会メンバーで訓練参加者の評価を各委員で役割分担
- ②模擬患者避難誘導；担送患者（10名）、護送患者（10名）、独歩患者（10名）
- ③避難患者の避難場所；東館10階から水平避難で西館10階へ避難
東館10階から垂直避難で東館8階へ避難
- ④応援医師及び応援職員の対応等

平成22年12月10日（金）

- (1) 静岡病院医療学術勉強会で特別講演会を開催
 - *災害時医療救援隊（DMAT）の活動報告
 - *講演者；静岡県立総合病院 副院長 安田清 先生

平成22年12月13日（月）

- (1) 夜間防災訓練の反省及び講評について
 - ①訓練講評及びアンケート内容について検討
 - ②訓練時における入院患者及び患者付添者からのクレーム対応等
- (2) トリアージ訓練について
災害時医療講習会；平成23年1月17日（月）
18：00から西館12階講堂
トリアージ訓練日；平成23年1月20日（木）
17：30から
訓練場所；東館1階から西館1階及び2階外来待合所

- (3) トリアージ訓練想定概要（案）
 - ①発災前
 - ②（発災から数時間）の被災者をうける現場・・・
発災から数日たってから
 - ③外部との連携の場面を想定
 - ④地震注意情報や警戒宣言等が発令された時の外来患者に帰宅・誘導等のシュミレーション
 - ⑤発災当日からの災害対策本部の机上訓練
 - ⑥被災者の搬送時の検案書の書き方
 - ⑦発災後30時間～40時間経過後の応援部隊の受け入れ
 - ⑧医療チーム及びボランティアの受け皿及び約束毎の確認
 - ⑨搬送方法（若手医師への対応の仕方やトリアージ指導）等

⑩模擬患者は重症患者らしく演出

(4) DMATについて

- ①参加メンバーの人選（外科系医師等）募集を行い、次年度の研修会（DMAT;東日本会場）への参加枠の確保に努める。

平成23年1月17日（月）

(1) 災害時医療訓練

(a) 平成23年1月20日（木）17：30

トリアージ訓練

*外来診療中に突然、予兆もなく地震が発生した。

*診療中の患者 西館1階 呼吸器内科患者
眼科患者

西館2階 消化器内科患者 腎臓内科患者等
が診療中

*トリアージ患者 「赤」・「黄」・「緑」の
各模擬患者

(2) 訓練シナリオ

(a) 17：30 外来診療中に突然、予兆もなく「地震発生」した事を想定した訓練を行う。

①地震発生・外来診療撤収

②初期治療ゾーンの設営

③外来待合場所の長椅子を移動

④外来待合場所のスペース確保

⑤酸素・吸引チューブ

⑥胸腔ドレーン等の医療器具の準備

(b) 18：00 訓練開始

①情報共有

②災害対策本部を立ち上げ設置

③本部にホワイトボード拠点地図を配置

④各部署等に分担した職員は、配置図に各自身で明記記入

⑤トリアージサイトの立ち上げ

⑥今回の訓練は、救急外来（ER）処置室等の利活用の検証

⑦ ERを使用した重症患者の搬送受入・診療対応の実技検証

⑧ ERを通過後の赤治療ゾーンへの患者搬送の流れ

⑨簡易ピンクカルテ（3枚綴り）の流れ

⑩防災用品（ジャケット・エアーストレッチャー）等

平成23年2月14日（月）

(1) トリアージ訓練結果及び評価の報告

(a) 前回のトリアージ訓練概要における参加者のアンケート等検証

*災害対策本部前のボード版に各治療ゾーンへの職員配置図を用意

- ①図面上に参集した職員名を明記
- ②医師からの提案；所属・氏名・日時・持ち場・連絡先等を参集した職員自身が記入してボード版に掲示
- ③職員配置表等を準備して災害対策本部で掌握
- (b) トリアージ訓練における訓練参加者等への対応
 - ①救急外来の使用方法・外科系・内科系等への振り分け
 - ②訓練前に各担当者を予め人選
 - ③トリアージ担当・模擬患者担当（医師・看護師等の人選）
- (c) 災害対策本部における指揮・命令系統
 - ①訓練時における指揮命令系統
 - ②命令系統は事前に説明が必要
 - ③外来診療中の外来患者への診療撤収
- (d) トリアージ訓練概要説明
 - ①訓練前の講習会において訓練参加者に訓練概要の説明
 - ②訓練当日は、訓練参加者への説明で混雑
- (e) アクションカードの作成
 - ①災害対策本部の管理者にはアクションカードを作成済
 - ②各部署（トリアージ・各治療ゾーン・患者受付等）は作成していないため作成が必要
 - ③事務部門（トリアージ受付等）の参集で人員が来ない時などに活用
- (f) 災害対策本部の設置場所におけるシュミレーション
 - ①実地検分（西館1階外来・東館1階救急外来処置室等）
 - * 西館1階診療受付案内コーナーの活用・・・次回の本部場所で検証
 - * ホワイトボードを1階フロアに常設が必要
 - ②ER（救急外来処置室）における重症患者の流れ
 - * トリアージ後の重症患者の導線
 - * 重症患者の流れ（CT撮影・ポータブル撮影機器等の配置場所の確認）

平成23年3月14日（月）

- (1) 大津波警報発令時における病院内の災害対策本部の立ち上げ基準と方策
 - (a) 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
 - *平成23年3月11日（金曜日）14時46分頃地震発生；（Mg9.0）
 - (b) 静岡市（葵区・駿河区）；震度4

- (c) 太平洋沿岸に「大津波警報」が発令
 - (2) 地震発生時における対応の検証と反省
 - (a) 地震発生後、建物外周・各施設内において被害状況収集・・・・・・
 - 総務課（警備員含む）・病院施設課（委託業者含む）
 - (b) 外来・病棟内の被害状況収集【患者の安全確認】・・・・委員・看護科他
 - ①被害状況の報告・・災害対策本部が設置されない（被害状況報告が不可）
 - ②今後は、被害状況の報告は、災害時医療対策委員長他で対応
 - (c) 地震による昇降機（エレベータ）の停止・・・・
 - ・防災センター・施設課
 - (d) 院内放送（地震発生における静岡市内の震度4及びエレベータの停止等）
 - ①防災センターにおいて院内放送で静岡の震度情報等を対応した。
 - (e) 地震による外来患者の怪我等の収容を対応・・・・
 - ・・・・・・総務課
- 以上の(a)～(e)を行った。

※問題点

- ①委員は、西館1階で情報収集にあたり、「震度4」を確認後、迅速に院内放送の指示をしたが、「本部立ち上げの震度」でなかった為、本部がなく、集められた情報の集約をどこにするか迷った。

※今後の対策

- ②震度が確定するまでは、本部の立ち上げを行うかどうか待ち時間がないので、災害時医療対策委員会の委員長と副委員長が立ち上げ、準備の担当として西館1階に居て、情報収集と本部長（病院長）への状況報告を行い指示を受ける。
 - (3) 震度による本部立ち上げ基準の見直し
 - *地震に伴う大津波警報が発令された時点の反省点及び今後の対応
 - (a) 大津波警報が発令されたが、この場合の本部立ち上げについて決めていなかったため災害対策本部を立ち上げなかった「反省点」
 - *震度5弱以上では災害対策本部を立ち上げる。
- ※今後の対策
- ①現在、震度5弱で第一配備と地震対策委員会（防火・防災委員会）が参集し、震度5強以上で全職員が参集し、本部を立ち上げる事となっているが、震度5弱以上で立ち上げる事を提言する。
 - ②震度4以下で「大津波警報」が発令された場

合は、災害対策本部を立ち上げるか否かの連絡員として、委員を配置する。

(b) 日勤務時間内での対応

* 西館1階外来や防災センター等で委員が情報を収集する。

* 災害時医療対策委員長・副委員長等が受けた各部署からの被害状況や報告を病院長に報告し、本部立ち上げについての指示を受ける。

(c) 夜間及び勤務時間外での対応

* 当直医師等が連絡担当となり、災害時医療対策委員会の委員長等へ報告し、上の指示を仰ぎ迅速に対応する。

(4) 電気設備機器等の節電対応について

(a) 東北地方太平洋地震(Mg9.0)が発生し、地震に伴う福島県の原子力発電所における原子炉の緊急停止時における停止過程で水素爆発事故が発生

(b) 東京電力管内において「計画停電」を実施していますが、当病院内でも電気供給量の抑制を促す為、省エネ節電を院内職員に周知し、節電の促進を実行する為に通知文を配布し、院内放送でも周知協力を提言する。

(c) 病院内の非常用発電機による使用可能時間(100%稼働でMax51時間;被害箇所や油送管等に破損が無い場合)を防災マニュアルで報告
* 緊急時に対応しなければならない医療機器等の順位づけが検討課題

①人工呼吸器 ②透析機器 ③輸液ポンプ等

(5) 福島県の原子力発電所内における放射線漏れ事故(被曝量等)

平成23年3月17日に放射線学会より出された福島原発事故による放射線量の障害についての声明を職員に配布

(6) 災害医療救援派遣

(a) 平成23年3月27日(日)東北地方へ災害医療救援で第一陣の派遣
東北地方太平洋地震の被災地へは医師・看護師・薬剤師及び事務職員等の派遣要請が有り、準備開始。

㉕ 輸血療法委員会

目的 安全でかつ適正な輸血療法の推進

委員長 石橋孝文

副委員長 荒井知子

委員 山崎文郎、田中俊夫、水野薫子、米沢 圭、大和 雄、松下 聡、綾部裕子、玉里滋幸、内田秀子、野中教世、市川昭美、榎本康世、山田好郎、

楠山美保、鈴木慎一

幹事 新村喜明

開催記録

平成22年5月27日(木)

1. 平成22年2~3月の血液製剤使用状況について
2. 平成21年度の年間血液製剤使用状況について
3. 輸血実施入力稼働後の状況について

平成22年7月22日(木)

1. 平成22年4~5月の血液製剤使用状況について
2. 宗教的輸血拒否に関するガイドライン(マニュアル)について
3. 産科危機的出血への対応ガイドラインと緊急度コードについて

平成22年9月30日(木)

1. 平成22年6~7月の血液製剤使用状況について
2. 宗教的輸血拒否に関するガイドライン(マニュアル)について
3. 輸血実施入力稼働後の状況について

平成22年11月25日(木)

1. 平成22年8~9月の血液製剤使用状況について
2. 宗教的輸血拒否に関するガイドライン(マニュアル)について

平成23年1月27日(木)

1. 平成22年10~11月の血液製剤使用状況について
2. 輸血療法委員会運用マニュアルの改定について
3. 輸血に関する苦情、要望、問い合わせ等の吸い上げについて

平成23年3月25日(金)

1. 平成22年12月~23年1月の血液製剤使用状況について
2. 自己血貯血バッグ(CPD液)製造中止に伴う規格変更について
3. 輸血オーダ・実施入力システムの残案件の進捗について
4. 輸血マニュアル改定について
5. 輸血による肝炎ウイルス等への感染が疑われた場合の対応について

㉖ 診療録管理委員会

H20年10月に電子カルテに移行し、H21年6月から放射線画像のフィルムレス化を行った。

退院サマリー記入2週間以内100%を目標にして、定期的に警告の文書を配布しているが、記入率は85%にとどまっている。

H23年度末に、予約患者の外来旧カルテの搬送停止を目標に準備をすすめた。超音波画像のように電子カルテに載らない過去データを見たい等の理由から一部の科は

搬送を続けている。搬送停止に伴って至急のカルテ取り寄せ、伝票の挟み込み業務の増加などカルテ庫の業務は増加した。
(佐々木美晴)

㉗ 褥瘡対策委員会

目的 褥瘡対策について、病院として総合的な対策を検討する。

委員長 富田浩一

副委員長 福島裕子

委員 土井光人、黒瀬かよ子、高塚敏子、永井一美、岩崎千景、伊藤弘、田中伸明、久保田美保子

幹事 足立高志

開催記録

平成23年1月26日(水)

- 1 平成22年の褥瘡新規発生について
- 2 褥瘡評価システムについて
- 3 体圧分散マット・クッションについて
- 4 回診方法について
- 5 次年度に向けて

㉘ 臨床研修管理委員会

目的 臨床研修プログラム委員会で作成、変更された初期臨床研修プログラムについて審議、承認する。

委員長 島本光臣

委員 平田健雄、西村 勉、北村 明、山田 寛、岡山憲一、加治正行、高木雅弘、岡田美智子、清水正見

幹事 鈴木 暁

開催記録

平成22年3月10日(木) 18:30

- 議題
- 1 平成22年度臨床研修認定について
 - 2 平成23年度臨床研修の予定について
 - 3 その他

㉙ 病院機能評価委員会

目的 病院機能評価項目を参考としつつ、病院としてのクオリティを高めることを目標とし、その実現に努力し、または、病院に対して提言を行うことを目的とする。

委員長 清水言行

副委員長 小柳津竜樹

委員 中井真尚、野口哲哉、前田賢人、佐野武尚、朴貴典、遠藤朱美、永野千鶴、青島由里子、青山治子、塚本剛生、鈴木芳治、篠原宏幸、山村英司、杉山弥生、佐藤景二、後藤 彰、長谷川

祐子、齊藤真弘、櫻井もえ美、松田光広、金井浩一、市川智章、高橋和子

幹事 高山 淳

開催記録

平成22年9月13日(月)

- 議題
1. 院内巡視報告
 2. 接遇研修報告

統括コメント

当院は、日本医療機能評価機構の病院機能評価Version 5.0の認定を受けているが、次回受審に向け今後も努力していきたい。職員による院内巡視を行い、不備の点を洗い出し、改善をした。また、病院としてのクオリティを高めるため、医師、看護師、メディカル、事務職、委託業者の病院全職員を対象とした接遇研修を外部より講師を招聘して開催した。業務等により受講出来なかった職員には後日DVDを使って研修を行い、病院職員の資質向上に努めた。
(清水言行)

㉚ 広報委員会報告

目的 病院広報誌の編集、ホームページの管理等をはじめ、広報全般について審議する。

委員長 小野寺知哉

副委員長 高橋好朗

委員 石橋孝文、大和 雄、松下 聡、齋藤克己、牧田まり子、青島由里子、塚本剛生、池ヶ谷博英、堀 吉孝、井出雅子、日下部幸伸、原田収司、青山典正、三浦和宏

幹事 重松 武、高山 淳

開催記録

平成22年5月11日(火)

- 議題
1. 体温計85号の編集
 2. ホームページの更新について

平成22年7月13日(火)

- 議題
1. 体温計86号の編集
 2. ホームページの更新について

平成22年9月7日(火)

- 議題
1. 体温計87号の編集
 2. ホームページの更新について

平成22年11月9日(火)

- 議題
1. 体温計88号の編集
 2. ホームページの更新について

平成23年1月11日(火)

- 議題
1. 体温計89号の編集
 2. ホームページの更新について

平成23年3月8日(火)

- 議題
1. 体温計90号の編集

2. ホームページの更新について

統括コメント

広報誌「体温計」については、写真、イラスト等を多く掲載することで視覚的にも興味をもってもらえるよう構成した。また、一般のかたが読んでわかりやすい言葉遣いを心がけ、親しみやすい文章となるような編集に努めた。

ホームページについては、PDFファイルを使い、各診療科配置図、外来担当医表等をわかりやすく印刷できるようにした。

今後も情報発信の手段としてホームページの役割が重要となると思われるので、随時内容を更新し、情報の充実を図っていききたい。
(小野寺知哉)

㊸ ボランティア支援委員会

目的 静岡病院におけるボランティアの活動が円滑に行われるよう支援する。

委員長 丹羽潤児

副委員長 荒井知子

委員 千原幸司、池ヶ谷幸恵、鈴木公子、吉川直子、竹元友佳子、石岡 咲、鈴木光枝、杉田知穂、青山典正、星野芳子

幹事 原田収司

開催記録

平成22年5月27日(水)

○第1回支援委員会開催

1. 平成21年度活動状況報告
2. ボランティアミーティング(H22.7.8)について
3. 平成22年度年間活動計画

平成22年7月1日(水)

○第2回支援委員会開催

1. ボランティアミーティング(H22.7.8)の役割分担について
2. 京都大学生ボランティア研修受入について

平成22年7月8日(木)

○第1回ボランティアミーティング開催

1. 活動報告及び表彰式(表彰者2名)
2. 意見交換会

平成22年8月30日(月)～9月3日(金)5日間

○京都大学生ボランティア活動研修実施(1名)

1. 学生ボランティア研修オリエンテーション
2. 実地研修(1階フロア、薬剤科)

平成22年11月11日(木)

○第3回支援委員会開催

1. 病院フェア参加協力について

2. 院内コンサート(H23.2.17)について
平成23年1月13日(木)

○第4回支援委員会開催

1. 院内コンサート(H23.2.17)の役割分担について
2. 第2回ボランティアミーティング(H23.3.17)について

平成23年2月17日(木)

○院内コンサート開催

1. バイオリン、ピアノ、チェロ演奏
2. 楽曲(歌)

平成23年3月17日(木)

○第2回ボランティアミーティング開催

1. 講演会「院内の放射線治療」について
2. 意見交換会

統括コメント

今年度、初めての委員長に就任しましたが、副委員長や委員の協力により何とか1年間の活動ができました。近年、会員数も減少傾向にあります。登録している40名の会員が、それぞれ1階フロアでの案内、病棟巡回図書、ウエスの作成等積極的に活動していただきました。また、昨年度はインフルエンザの影響で開催できなかった院内コンサートも2月に「ホワイトコンサート」として開催でき、入院患者をはじめ多くの来場者がありました。今後もボランティア会員が奉仕の喜びを味わう事のできる病院の支援委員会を目指していきます。

(丹羽潤児)

㊹ クリニカルパス委員会

目的 医療の標準化を目指し、質の高い医療の提供と、効率の良かつ、患者に分かりやすい医療を目指すためのシステム構築と管理を目的とする。

委員長 小野寺知哉

委員 佐野倫生、野口哲哉、米澤真澄、長谷川和樹、佐野武尚、前田賢人、小柳津竜樹、中井真尚、遠藤朱美、池ヶ谷幸恵、前田弘子、石井佐智子、高塚敏子、岡本浩明

幹事 島崎早苗

開催記録

平成22年5月17日(月)

1. クリニカルパスシステム機能について
2. クリニカルパス作成問題点について

平成22年6月28日(月)

1. パスシステム改善について
2. パスシステム運用開始について
3. パス研修会の開催について

4. 新規パス承認検討

平成22年8月2日(月)

1. パスシステム機能修正について
2. 患者用パスについて
3. パスシステム機能説明・研修会について
4. 新規パス承認検討

平成22年9月7日(火)

1. パスシステム動作について
2. パス研修会報告
3. 新規パス承認検討

平成22年10月18日(月)

1. パスシステム内、薬剤変更について
2. 第2回パス説明会について
3. 新規パス承認検討

平成22年11月15日(月)

1. パス使用について
2. 新規パス承認検討

平成22年12月20日(月)

1. パス使用について(報告)
2. 新規パス承認検討

総括コメント

SBS情報システムと電子カルテ上のパス仕様の調整を行った。平成22年9月からクリニカルパスシステムを実際に電子カルテ上で運用できるようになる、各科のパスを作って頂き、運用を開始した。パスはクリニカルパス委員会で確認を行い、パス適応の認可をした後に実施としている。各科でパスを作りやすくするため、また、使いやすいパスを作るためのヒントを示すために、パス作成の実際について講演会を行った。

今後、各科にパスの種類を増やしていただく、それぞれの科内でパスの浸透度を上げる、バリエーションの解析によりより効率的で安全が得られるようパスを改善する、を目標としていきたい。

㊤ 患者給食管理委員会

目的 患者給食の基本的事項を審議しその改善向上を図る

委員長 岡田美智子

副委員長 斎藤隆之

委員 脇 昌子、高橋好朗、前田賢人、斎藤紀子、山村加寿子、花村多美子、重松 武、星野芳子、久保田美保子、長谷川祐子、金原葉子、大村真弘、遠藤恵美子

幹事 寺田恭子

開催記録

平成22年6月14日(月)

1. 平成22年度年間計画について

2. 平成22年度5月の嗜好調査の報告

3. 食事オーダー締め切り時間外の電話連絡について

平成22年10月19日(火)

1. 平成22年9月の嗜好調査の報告

2. 残食調査の報告

3. 米のトレーサビリティ法について

4. 新規の経腸栄養剤の検討

5. 時間外食事オーダーについて

6. 食事オーダー組み合わせ禁止について

平成23年2月15日(火)

1. 平成23年1月の嗜好調査の報告

2. 残食調査の報告

3. その他(食事オーダー、経腸栄養剤の取扱など)

総括コメント

9月に行っている年次比較の嗜好調査は、長期入院患者の占める割合が増加したが、喫食率、満足度はほぼ同じであった。今年度は満足できない具体的な理由を調べたが、料理について(ワンパターン、同じものが多い)や硬さについての意見があり、これらは、献立会議でメニューの見直し、検討を行った。アンケートの回収率は40.8%で、昨年度(40.9%)とほぼ同様であった。回収率をあげるための記入、配布回収方法について今後も検討する。

食事オーダー入力システムについて検討し、コメント枠の統一やワープロ入力をコメント化した。禁忌食品については実際の給食での対応との違いをなくすための一覧作成を行い、使用しやすいシステムへ変更していく。経腸栄養剤については食事オーダーシステムより入力可能となり、運用が始まった。

締め切り時間外のオーダーはインシデントにもつながるため、受け付ける項目(4項目)とし、病棟にも周知したが、引き続き緊急性を伴わない電話連絡を最小限にするよう徹底させていく。

㊥ がん診療委員会

目的 病院のがん診療にかかる方針、運用等について、検討、審議する。

委員長 宮下 正

副委員長 平田健雄

委員 佐々木美晴、千原幸司、石橋孝文、小柳津竜樹、岩井一也、森木利昭、前田賢人、米沢 圭、遠藤朱美、野中教世、吉田佳枝、井上暢子、太田明子、渡辺林子、坂上朋子、鍋田 泉、勝山徹、金森久美子、望月英明、丹羽潤児、鈴木光枝、篠原宏幸、白鳥吉章、島崎早苗、川口則行、

中西一陽
幹事 望月一人

開催記録

平成22年7月29日（木） キャンサーボード全体会議

- 1 各部会からの活動報告について

平成23年3月28日（月） キャンサーボード全体会議

- 1 平成22年度の活動報告について
- 2 平成23年度の活動計画について

（コメント）

関係部署の協力により、相談支援センターの機能強化、がん登録の促進、緩和ケア研修会の実施など拠点病院に求められている役割を果たし、実績・成果を挙げることができた。

しかし、拠点病院に求められる機能は年々増す傾向にあるため、今後も国の動向を注視し求められる要件は、一つずつクリアしていく必要がある。

がん診療連携拠点病院として、地域のがん医療に貢献できるよう今後も委員会活動を展開していきたい。

（宮下 正）

③⑥ DPC委員会

DPC調査様式Ⅰの入力項目が見直され、より詳細なデータの提出が要求されることになり、委員会で運用方法を検討した。疾患の重症度分類などのデータが要求されており、事務側でのデータ収集にも限界があり、かなり負担となっている。データ不備は機能評価係数の減点となり病院の減収につながるため、医師の協力を得てデータ不備を無くす努力が必要である。

（佐々木美晴）